

復刊第三號

光

國民體育大會特集

N.S.R.

機關雜誌

水泳

日本水泳連盟

No.86

運営面より見た

第4回国民体育大會

水泳専務理事 藤 田 明

現在の様にボートも、ヨットも秋季大會に編入されて居る今日では、國民体育大會夏季大會と稱しても水泳一色になつて居るが、水泳大會も既に回を重ねること四回で、年一年と内容が充實して行くのは誠に喜ばしい。量の方面から見れば、本年の参加都府縣數は、男子高校四六（全府縣参加）、女子高校三三、實業團三五、教員二八、青年團三七で、平均三六を示し漸次増加の一途を辿つて、陸上競技の様子に全種目全都府縣参加という形になるのも、餘り遠い將來のことではないと考えられる。この點から見て本大會の中心種目である男子高校が既に四六の飽和點に達したのは、水泳日本の基盤を一段と強化したものであり、其の質的向上と共に特筆されてよい。内容の點から觀察しても、第一回の寶塚での大會は日本選手權を兼ねて、雑茶を濁した程度であつたが、第二回の松任では早くも獨立大會として發足し更に質的充實を意圖して、競泳水球共に東西 OB 對抗競技を加え、第三回の八幡の大會は一段と内容の整備と擴充を圖つて、大會期間を從來の三日から四日に延長し、東西 OB 對抗競技に替るに社會人對學生の競技を以てしたため、大會の前二回はもとよ

り明治神宮體育大會當時以上の内容を盛り上げる結果となり、大競技會たるの風格を備えるに至つた。

本年の第四回大會の當初東京都で開催の豫定であつたが、遂に施設の見透しがつかず、急に隣接の横濱市に持つて行くことを餘儀なくされたが、地元 노력に依つてこの難關を克服し、大會の遂行に支障なからしめた點は感謝の外はない。尙今回は社會人學生對抗競技の持つ企圖を最高度に活用するため、構想を一步進めて高校生を加えた三部對抗競技に改組した。この成果に就ては後でふれることにするが、日進月歩する水泳日本の發展に對し、常に即應態勢を取らんとすると云うよりもむしろ前進と向上の誘發に専念する水泳連盟の行き方を示す一例として觀察し、又批判していただけたら幸いと思う。

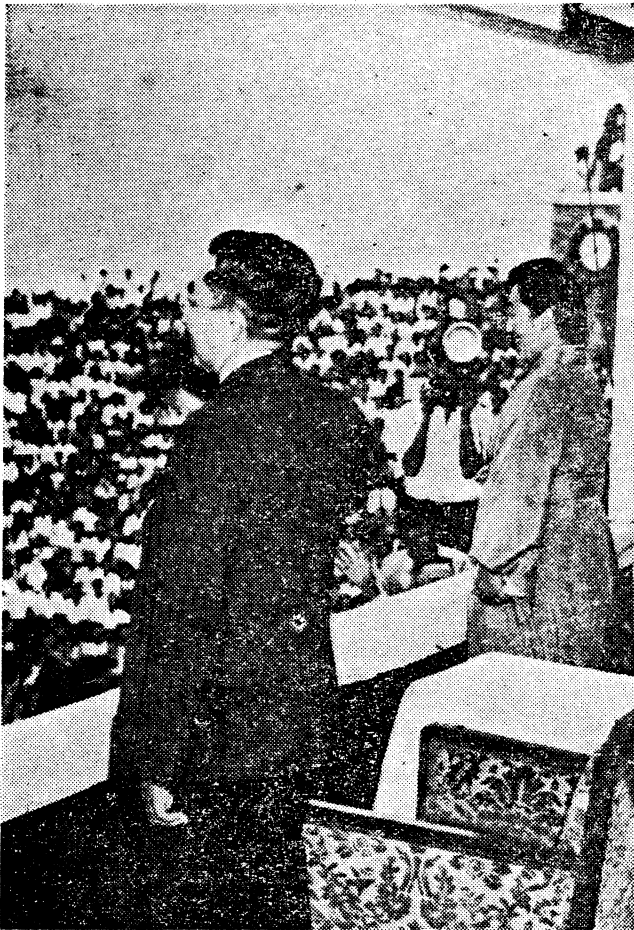
前書が大變長くなつたが、大會の運営方面から本年度の國民体育大會を回顧し、併せて今後の在り方に就ても觸れて見たい。第一に取り上げたいのはタイムレースの問題である、水泳連盟としては國體の性質上、各分野の代表競技者にあまねく参加して貰い、國民祭典たるにふさわしい内容を持つことを念願して居るので、現在の種目を減らす考えは毛頭な

目 次

第4回國民体育大會

運営面より見る.....	藤田... 1
高校と社會人對學生三部對抗評.....	杉田... 4
青年團實業團教員競技評.....	伊藤... 5
大會記録.....	7
第25回日本學生選手權大會評.....	長久...12
同 記録.....	14
末弘、杉本兩顧問還曆を祝う.....	松澤 高石...17

全日本高校水上競技大會評.....	高石...21
同 記録.....	22
男子高校東西對抗.....	志村...26
同 記録.....	27
女子高校東西對抗記録.....	28
質疑應答.....	29
F I N Aの總會決定事項.....	30
海外ニュース.....	35
地方水上大會記録.....	38



野毛山會場に於ける天皇皇后兩陛下

い。しかも各種目共競技者は年を逐うて開發され、参加數は増える一方なので、殆んど休む暇もない位に進行しても消化し切れぬ程である。従つて早朝から競技を開始し乍ら夕方は暗くなる迄續行しなければ運営不可能な状態である。こういう現況ではタイムレースという運行方式は不可缺であり、止むを得ず第二回大會以來採用して今日に至つた。青年團五十米競泳の際、着順とタイムの相關々係に就て抗議が兩三度發せられて居たし、又同一なタイムの者を決勝出場人員數にしばる際の抽籤方法に就ても物議をかまして居たが、何れもタイムレースの持つ本質的缺陷の問題であつて、現行制度上では止むを得ないと言ふのが結論であらう。前者の場合我々の印象が一番強く残つて居るのは、今夏の羅府に於ける全米選手權大會百米決勝の濱口君の場合であり、明らかにタイムが良好であるにもかかわらず着順に於て下位に甘んじなければならなかつた事實が、如實に之を物語つて居る。國體に於てはこの様な矛盾はなかつたが、相當着差があつたのに同タイムとして取扱われたとか、着順が納得出來兼ねるとかの抗議で

あつた様に思う。我々が競技役員として最も間近でレースを判定する場合同タイムでも距離に於て相當差のある——少くとも感覺の上に於て差異のある——ことを認めることはしばしば體驗するところである。しかもこれだけ差のある者を同タイムとして着順を無視して(但し同一レースの同タイムの者丈で決勝出場者を決める場合には着順が絶対に物を言う)抽籤に依る場合、豫選で負けた者が勝つた者を排して決勝に進む場合もあるという不合理が生れるが、この程度の不合理を許さなければタイムレースは成り立たないのが常識である。然し乍ら競技の世界にあつては、不合理を最小限に留めるのが望ましいのはもとよりであるから、五十米競泳のごとき判定のむづかしい、しかも同一タイムの計出される可能性の多い競技は、タイムレースに不適當であるのは論を俟たない。特に本年の様に一コースに九人も泳いだ場合、不合理性を抑えることはなかなか困難である。結論づければ五十米競泳はタイムレースの對象としない——即ち普通の競技形式を採用して豫選(要すれば第二豫選)準決勝、決勝の経路を踏むことが最適である。尙競技場が九コースの場合も出場人員は七名以内に制限することが、着順判定上望ましい。

タイムレースに関連して一言したいのは競技役員の訓練不足の問題である。具體的には多く觸れたくないが、本年の主管團體たる神奈川県水泳連盟は、前身横濱水泳協會時代以來歴史もあり実績もある競技團體であるため、本年は本部役員の派遣を地元關係者のみに留め、一切をお任せしたのであるが、神奈川県水連の有力スタッフが戦争の影響から散逸状態にあつたので、新人の養成でこれに代えたが、結果は上乘とは言えなかつた。國體の前、女子高校東西對抗を初め數次の訓練を續けられた努力は多とするが、率直に言えば國體の様な全國的大競技會を運行するには不充分であつたと言わねばなるまい。何でもないことの様であるが女子計時員がゴール間際で水の飛沫を避けて、飛びのいて居た様な風景が、一種の不信と化して前掲の抗議を誘發したと見るのは筆者の偏見であらうか。競技役員の養成擴充に関しては、水泳連盟でも重大な關心を寄せて居り、出發合圖員、審判員、監察員、計時員等直接競技の判定に關係のある役員の公認制度をも考慮中である。今後も地元を中心に競技會の運営を持つて行くことに異論はないが行き過ぎて地元偏重にならぬよう調

整しなげなければならないと考へている。

次に會場整理に就て述べて見たい。國體を獨立競技會として運營することになつた第二回大會以來水泳連盟としては會員券又は之に準ずるものの發賣並びに當日の觀衆の整理等に就ては、すべて大會を主管する地元加盟團體を通じて一任の形を採つて來た。松任、八幡共連日相當の觀衆を吸引し、特に昨年の八幡に於ける最終日は社會人學生對抗競技に人氣が集中したためか役員席の屋根迄うずめ盡す程の盛況であつたが、觀衆と會場の收容能力(と言うよりも會員券の發賣數)がほぼ一致したため、何等故障なく大會を閉じることを得たが、本年の最終日は兩陛下御來場のこともあり、村山主將以下渡米選手の參加する社會人・學生・高校生三部對抗の開催日でもあつたので、觀衆は早朝からつめかけ、遂に身動きも出來ない超満員となつて、事故發生が懸念される程であつた。しかも事務局が前賣券を定員以上賣捌いた上に、當日券をも賣出したため、(これは水連の申し入れに依つて直ちに中止せしめた)會場の整理は全く不能に陥り、遂には會員券の拂戻しを餘儀なくさせられたのは、水泳界初まつて以來の不祥事であり、善意の觀衆に迷惑をかけた點、責任を痛感する。特に一時全面的札止めにしたため、競技關係者や招待者に迄入場を待つていたとき、不快な思ひをさせた點誠に申しわけない。前の競技運行といふ、此の會場整理といふ今少し水連自體が具體面にまで關與すべきであつて、我々に多くの教訓と反省の機會を與えてくれた。

最後に今後の大會の競技的構成に就て簡単に述べて見たい。先づ參加種目の點であるが、體協の國體委員會に於て、水泳の種目が多すぎるとか、參加人員が多きに失すとかの意見が開陳された。併し率直に言つて何れも背けに當つて居ないと思ふ。陸上競技や他の球技が、一般男子、同女子、高校男子、同女子の四種目に制限して居るのが通例であるから、これに同調せよといふのが前者の論であり、又水泳だけで四十人も五十人も參加するのは他との振合上多すぎはしないかといふのが後者の主張であるようだ。球技の場合はとも角も陸上競技は上記の四つに參加種目を絞つて居るが、競技種目が殆んど全面に亘つて居るのに反し、水泳の場合は男女高校、實業團、教員、青年團共自由形は短距離中距離、背泳、平泳共に一種目に制限して居り、決して多くは

なく、參加人員も従つて多すぎるといふのは納得が行かない。たゞ他の競技團體と異つて參加種目がいさゝか複雑だが、これは明治神宮大會以來採用して來た方式であり、又水連が三角形の底邊を更に廣くするため各分野の基盤を擴充せんとする基本方針の表れであつて、批難を受ける對象にはならない。むしろ國民體育大會の本質上各界層の開拓こそ望ましいのであつて、水連として關係當局や文部省の賛意さえ得られれば、新制中學校府縣對抗競技を加え、完璧を期せんとして居る位である。社會人學生高校生三部對抗競技は水連が主催して特に參加して居る種目であるから、分離して出來ぬことはないが、國體の量的要素と竝んで必須不可缺と考えられる質的要素を温存するために、是非殘して置きたい種目である。本年は渡米選手の疲勞や高校選手の過勞(本年急にインターハイ東西對抗を舉行したことに依る過勞)のため、所期の成果程ではなかつたが、水泳日本の將來を擔う高校競技者の開發に非常な役割を演じることは、疑いを入れない。高校男子に比して高校女子の劣勢は覆い難く、我々の最も腐心するところであるが、此の對策ともなり併せて若いOGの競技に親しむ機會を多からしめるとの一石二鳥をねらつて、女子高校を廢して一般女子對抗としOG高校はもとより、中學生の俊秀も拾ひ上げることに變更したい意向である。

上記の參加種目と併行して競技種目の研討が、先般來競泳委員會の手で續けられて來た。其の結果第一に青年團の短距離種目たる五十米を廢止して百米に代える可きだとの結論を得た。これは復活以來二年にしかならぬ青年團の異常な躍進から見ても當然の歸結であらう。第二に中距離種目の二百米も短かすぎるから、青年團教員共四百米に代えるべきだとの意向が強い。そうなると更に欲が出て、高校と中學校の中距離は四百米から八百米に移行させたくもなるが、限られた日數では、實現の可能性が少いようである。

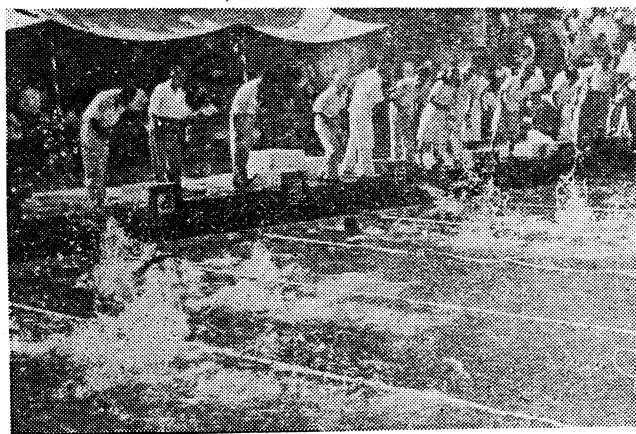
日本選手權大會、インター・カレッジ、インターハイと共に今や水上日本の四大競技會たる形式と内容を築き上げて來た國體水泳大會の育成は、全國水泳人すべての關心の的でなければならない。國民體育大會の運營に關し、お氣附の點を大小にかゝらず御寄せ下されば甚だ幸いであつて、敢て加盟團體及び同好諸賢の御高見を仰ぐ次第である。

第4回国體評

高校と社會人對學生三部對抗

杉田芳郎

水泳シーズンの終幕を飾る第4回国民體育大會夏季水上競技大會は9月15日から4日間横濱市野毛山プールで水泳界の各部門にわたる總決算ともい

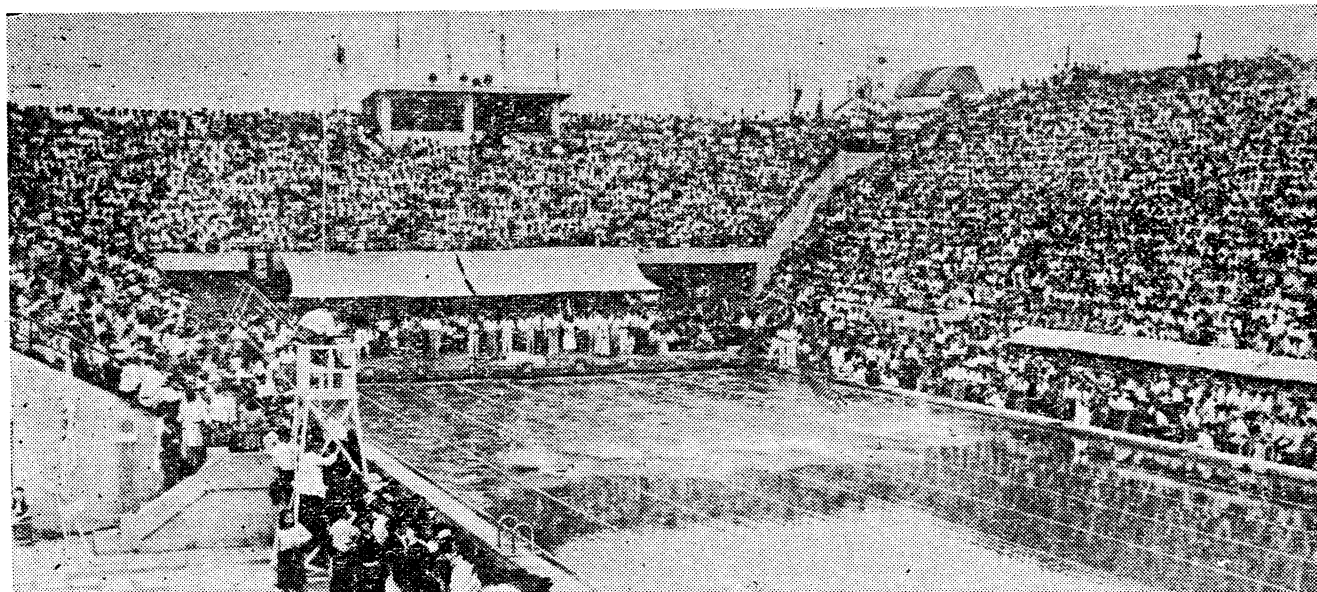


男子高校100米自由形決勝

うべき「水の祭典」として行われた。新設の野毛山プールは標高40米横濱市街を一望におさめる異國情緒豊かな近代的設計に基くもので絶好の場所である。さる6月から24時間突貫工事で最後の仕上げにかゝっていたが台風禍などあつて一部を残し九分どおり完成して競技には差つかえなくまず順調に運

營が出来た。最終日の18日は古橋以下の渡米選手が出場とあつて一萬人收容のスタンドも超満員の盛況でプールサイドにあぶれていたほどで一萬五千程度の收容力が必要であつたが地形的にも設計の餘地がないようだ。宿舍は会場附近が風紀上芳しくない場所なので選手らに對する悪影響を防ぐため市外に指定した親心など細心の注意も拂われていたようだった、その他宿泊料物資配給輸送にも苦心の交渉のあとが見受けられた。

競技成績では青年團は熊本が初優勝し福岡は實業團で三連勝の偉業に輝き男子高校は去年の二位から優勝へのし上つて九州勢の意氣を示した。女子高校は各種目にむらのない東京が連勝した。今回から社會人對學生に高校を加えて行われた、三部對抗は興味を呼んで今大會の興味の焦點ともなつたが結局學生軍の壓倒的勝利に歸して幕をとじた。記録的にみれば青年、教員、實業團のレベル向上は目立つているに對し男女高校は目標が8月のインターハイに集中しているので氣分的にも下り坂であつた。三部對抗の學生陣はインターカレヂ終了後であるだけに一息ついて軽い氣持で出場しているから好記録を望



大會会場全景(競技は女子高校100米自由形決勝)

むのは無理かもしれないが、全国から選ばれた各部門精鋭が交互に繰展げられるレースを通じ技術面の認識を深めそれによつて刺戟を得ることは水泳發展にも大きな役割を果すものである。男子高校で國體記録を更新したのは平泳 200 米、800 米リレーの二種目であつたが 8 月の全日本高校に比較すれば水溫、氣溫の低下と氣分の點からベストコンディションではなかつたが、いままで芽の出なかつた下積選手が頭角を現わしたのが目についた。100 米自由形は 4, 5, 6 の中央コースにならんだ吉岡(静岡)樋口(兵庫)杉原(広島)の首位争いとみられたがサイドコースの青山(東京)が後半の力泳でトップを奪い、ダークホースぶりを發揮した。400 米で庄司(千葉)は 5 分 6 秒の自己のベストタイムで優勝したが 4 分 50 秒臺を期待されていた川口(静岡)田中(福岡)北村(高知)らは泳ぎに元氣なく不調であつたのは意外だつた。100 米背泳の中島(福岡)は 8 月の 1 分 11 秒臺當時の張りのある泳ぎを忘れていた。平泳 200 米寺崎(福岡)尾崎(埼玉)が 2 分 56 秒 6 の同タイムで大會記録を更新したにすぎず、手塚(兵庫)高柳(静岡)らは 53 秒臺の實力をもつ選手だが 3 分を僅かに切つていたのも豫想外である。女子高校では 100 米自由形の新子(奈良)が 1 分 17 秒 0 で大會記録を樹立したが自己のベストには及ばなかつた。200 米も新子が一人 2 分 50 秒を切つていただけで各選手に大した進境が認められなかつた。今シーズン好調にあつた森(静岡)は頑張もあつたが不調で泳ぎにも精彩を缺いていたのは残念だつた。二位の田邊(東京)以下七位江濱(福岡)までが僅少の差でゴールに雪崩れ込む混戦もあつて昨年から見ても全般の水準は向上している。背泳の小椋(東京)が群を抜き二位の 1 分 30 秒片岡(奈良)以下を引離し泳ぎもはつきりとしてきた趣がある。

200 米平泳は昨年十傑四位 3 分 26 秒 6 の大野(東京)が大きく飛躍して 3 分 16 秒 8 で記録を破

つており大石(京都)豊谷(兵庫)に大差をつけて一位となつたのは賞される。豫選で木梨(静岡)が初めバタフライ泳法で完泳したが 3 分 45 秒 0 で惜しくも五位で落選したとはいえこの捨石こそ女子平泳界に多大の感銘をあたえやがて女子バタフライ發展の糸口ともなろう。全體に男子、女子ともに優秀選手が沈滞氣味であつたのに反し常に下位に甘じていた選手の奮起でシーズン掉尾に一あわふかしたのも面白いレースであつた。三部對抗では 50 米自由形に田口(社會人)は依然強く素晴らしい滑りをみせて二位の眞木(學生)と 26 秒 6 の同タイムで 0 秒 2 大會記録を短縮したが、40 米頃までは田口がはつきりと差をつけていた。遊佐(社會人)は連日實業團に全力を注ぎ疲れ氣味であつたと思う。100 米の濱口(學生)は渡米以來貫祿をつけて自信たつぷりのレース度胸は今シーズンの收獲の一つである。眞木(學生)もインターカレヂから元氣があり丸山(學生)を抑えた。高校の樋口、青山が 62 秒臺で三強豪に續いたのは順當である。200 米の記録は問題にならず 400 米は古橋(學生)が一應記録を狙つてスタートしたが前半 100 米で全米記録のラツプを破つていたが後半 200 米から 300 米に 3 秒程ペースがくるつたのは渡米後正式練習に缺けていたことによる。二位を争つて本山藤野(學生)が 4 分 50 秒臺で泳いだけで四位以下の 5 分臺は淋しかつた。八百は田中(高校)がラストで貫祿をみせ本山藤野をふり切つて 10 分 11 秒 6 の自己のベストタイムで首位となつた。四位の杉浦(慶應)の進境が光つていた。平泳は竹林地(社會人)が 100 米、200 米とも大會記録を更新して學窓の最後を飾つた。背泳 50 米、100 米は待鳥(學生)が二、三位と同タッチで危ぶなげな勝ちかたであつたが背泳陣も特筆すべき好記録は出なかつた。四日間を通じ記録更新七五は兎も角躍進を實證するもので來シーズンの期待も大きく楽しみである。

青年團實業團教員競技

伊 藤 謹 平

青年團では 300 米メドレーを除く各種目の記録が更新され全般的に進歩の跡が現れた。300 米メドレーは木部(背)、森(平)、高山(自)と揃つたメ

ンバーで静岡が問題なく一位。200 米自由形は豫選 D 組で全體を通じ唯二人 30 秒を割つて一、二位となつた西、奥野の大接戦となり奥野がタッチでよく

西をおさえた。記録は同タイムであつた。100 米背泳はさきに行われた日本選手権で四位になつた木部がそのときの記録(1 分 13 秒 6)には及ばなかつたが 1 分 14 秒 4 という好記録で昨年に続き連勝した。50 米自由形はスタートのすべり出しの僅かの差が殆んどそのままゴールまで流れこんだもので短距離に於けるスタートの重要性がこれ程はつきりしたレースはないと思う。長谷川の 27 秒 8 は昨年度二十傑表の第十二位に當る記録で以下四位まで新記録で特に進歩顯著であつた。100 米平泳は昨年の覇者森の追泳をしりぞけ中村が好記録で逃げ込んだ。以上の結果 300 米メドレー、100 米背泳に第一位、100 米平泳に第二位を占めた静岡がこの三種目 19 點で昨年に続き優勝した。第二位高知 12 點、第三位福岡 12 點。

實業團は水泳史の十數年に亘る新舊名選手を揃えた模範レースであるともいえる。即ち泳法は勿論の事、スタート、ターン、最後のタッチ、等からリレーの引繼まで、その最高の技術を以て如何にレースするかという問題に對して與えられた一つの解答であらう。400 米自由形、100 米背泳、200 米平泳は順當に昨年の優者坂本、黒佐、藤垣が連勝をとげた。300 米メドレーでは横濱ゴムの第三泳者秋永がよく昨年の勝者八幡製鐵のアンカー太田黒をおさえて實業團對記録で優勝した。200 米リレーは、横濱ゴム(東京)大丸(京都)八幡製鐵(福岡)が三、四、五コースに並び、50 米では京都の岩合が兩脇のコースをおさえて藤本に引繼ぎ、100 米では福岡の坂本が一位をうばい、150 米では京都、福岡、東京の順となつたが、京都の田口はそのままゴールインして一位、東京の遊佐はよく福岡をおさえて二位に入つた。記録的には收穫がなかつたが、100 米自由形は二コースから太田黒、遊佐、田口、太田、坂本、秋永、岩合と八コースまで七名のベテランで行われた。スタートからのすべり出しは流石に往年の名選手、田口、遊佐が僅かに他をおさえて 50 のターンをしたが、それ以後は後進にトップをゆづり、太田がやゝリードした。50 のターン後の中央コースのセリ合から離れて兩端の二コース太田黒、八コース岩

合が、中央五コースの太田を追い、岩合は太田を抜き、太田は太田黒の追泳をしりぞけ二位を確保した。結局背泳に人のいない新進京都大丸は奮闘の甲斐なく 1 點の差で二位となり、八幡製鐵が 31 點で三連覇をとげた。第三位は横濱ゴム 21 點、この三チームで總點數の 3/5 を占めた。府縣成績はこのまゝ福岡 34 點、京都 29 點、東京 27 點の順となつた。東京勝村建設の不振は二位を京都にゆづつてしまつた。

教員は全種目に記録を更新した。中でも 100 米背泳の野島(静岡)の 1 分 13 秒 6 は戦後水泳界で不振の背泳で 14 秒を割る選手の少い現在大記録であつた。九州が壓倒的に強く三位迄を独占、點數の六割以上を獲得した。青年團と共に記録的に低調であつたこの種目の記録が全部更新されたことはよろこばしいことである。慾をいえば、200 米平泳では 3 分を割つてもらいたかつた。結果は各種目に得點した熊本が 29 點で優勝した。以下福岡 24 點、鹿兒島 23 點の順であつた。

以上三種目に於ては實業團では大丸(京都)教員では熊本の健闘の他は大體昨年度と大差のない結果となつた。

以上の三種目に高校を入れた四種が、男子府縣對抗種目であるが、この四者の間の記録的差異が非常に少なくなつてきたことは注目し得る。出場人員の減少、乃至は大會期日の短縮が要望されるとすればこの四種目の分類法が検討されねばなるまい。これとは逆に女子が高校女子のみを對象としていることも同時に考慮されなければならない問題であらう。

以上シーズン末期に於て氣温 20 度乃至 25 度、水温 20 度乃至 23 度のコンディションでおさめた大會の成果としては立派なものである。全府縣が參加した府縣對抗という昂奮から大會の運営又は審判の結果に抗議が出たことと、出場資格を守らず失格したチーム、泳法の反則で失格した競技者を出したことは残念なことであり、又考えさせられたことでもあつた。

第4回國民體育大會夏季大會

水上競技大會

期日 9月15日 16日 17日 18日

氣温 (21°) (20.5°) (25°) (26°)

水温 (20.5°) (20°) (22°) (23°)

場所 横濱野毛山プール (50米) 公認

() 内ハ豫選通過記録

男子高校府縣對抗 16日 17日

100米自由形

1	青山幸郎	(東京)	1:02.6	(1:04.2)
2	吉岡清吉	(静岡)	1:03.8	(1:03.2)
3	樋口清治	(兵庫)	1:03.8	(1:03.2)
4	杉原満弘	(広島)	1:03.8	(1:03.4)
5	堂崎治好	(広島)	1:04.2	(1:03.4)
6	大奥兵一	(奈良)	1:04.8	(1:01.2)
7	庄司政雄	(千葉)	1:04.8	(1:04.2)

400米自由形

1	庄司政雄	(千葉)	5:01.6	(5:03.6)
2	田中寧夫	(福岡)	5:06.0	(5:02.8)
3	川口友平	(静岡)	5:07.8	(5:11.2)
4	北村康雄	(高知)	5:08.6	(5:06.0)
5	本宮敏行	(愛媛)	5:10.2	(5:11.0)
6	青山幸郎	(東京)	5:10.2	(5:08.6)
7	中西理雄	(兵庫)	5:10.4	(5:13.4)
8	浅野満	(愛知)	5:12.8	(5:14.0)
9	鷹野強	(静岡)	5:16.8	(5:09.2)

100米背泳

1	中島雅好	(福岡)	1:13.4	(1:15.0)
2	倉橋範彦	(静岡)	1:14.6	(1:15.0)
3	芦田拓郎	(岡山)	1:14.6	(1:14.0)
4	清野満平	(宮城)	1:15.6	(1:16.0)
5	金森克行	(広島)	1:16.2	(1:16.0)
6	上村稔	(熊本)	1:16.4	(1:15.2)
7	宮田春雄	(鹿児島)	1:19.0	(1:16.8)

200米平泳

1	寺崎博之	(福岡)	2:56.6	(2:57.0)
2	尾崎好孝	(埼玉)	2:56.6	(2:58.6)
3	手塚政一	(兵庫)	2:58.2	(2:56.6)
4	毛利洋一	(宮城)	2:58.2	(2:56.6)

5	久保田省三	(静岡)	2:58.6	(2:58.2)
6	高柳昌之	(静岡)	2:59.0	(2:58.4)
7	阪本純之裕	(広島)	2:59.0	(2:58.8)
8	佐藤孝郎	(岩手)	2:59.2	(3:00.8)
9	赤坂雅雄	(東京)	3:01.4	(3:01.2)

800米リレー

1	広島	(堂崎、香川、神川、杉原)	9:33.6	(9:41.0)
2	静岡	(片瓜、吉岡、鷹野、川口)	9:35.2	(9:37.4)
3	愛知	(堀田、浅野、五島、高井)	9:44.4	(9:56.0)
4	福岡	(田中、横田、大隅、遠藤)	9:46.0	(9:51.8)
5	兵庫	(樋口、北岡、豊岡、中西)	9:54.0	(10:01.8)
6	高知	(寶木、安藤、中城、北村)	9:55.8	(10:04.4)
7	愛媛	(胡井、濱田、和氣、本宮)	10:02.6	(10:07.0)
8	大分	(肥川、富田、瀧、谷川)	10:03.0	(10:07.8)
9	東京	(青山、松島、稻村、仙藤)	10:10.4	(10:08.0)

300米メドレー・リレー

1	福岡	(中島、寺崎、大隅)	3:39.6	(3:45.0)
2	兵庫	(原田、駒村、樋口)	3:40.8	(3:44.0)
3	静岡	(倉橋、高柳、吉岡)	3:41.6	(3:40.8)
4	岡山	(芦田、大田原、吉長)	3:43.2	(3:45.2)
5	高知	(谷、田村、安岡)	3:43.2	(3:46.6)
6	愛媛	(和氣、田中、田中覺)	3:44.4	(3:45.8)
7	奈良	(上田、中村、大奥)	3:44.4	(3:47.0)
8	宮城	(清野、毛利、高橋)	3:45.8	(3:45.2)
9	広島	(金森、大澤、杉原)	3:46.6	(3:44.2)

得点

①	福岡縣	29 點	②	静岡縣	26 點	③	兵庫縣	15 點
④	広島縣	14 點	⑤	東京都	8 點	⑥	岡山縣	7 點

女子高校府縣對抗 17日 18日

100米自由形

1	新子富子	(奈良)	1:17.0	(1:16.6)
2	山下貞子	(奈良)	1:18.6	(1:19.0)

3	牧尾弘子	(岡山)	1:19.0	(1:18.8)
4	森あき子	(静岡)	1:19.6	(1:19.4)
5	安部佐和子	(静岡)	1:20.0	(1:20.2)
6	太田教子	(東京)	1:20.0	(1:19.4)
7	佐々木博子	(広島)	1:23.0	(1:19.8)

200米自由形

1	新子富子	(奈良)	2:49.1	(2:53.6)
2	田邊和子	(東京)	2:54.0	(2:59.8)
3	塚本ちか子	(東京)	2:54.6	(2:57.8)
4	安倍佐和子	(静岡)	2:55.4	(2:51.4)
5	森あき子	(静岡)	2:55.8	(2:52.2)
6	青木暉子	(京都)	2:56.0	(2:58.8)
7	江濱敦子	(福岡)	2:57.8	(2:58.2)
8	井手弘子	(愛媛)	3:01.0	(3:00.0)
9	佐々木博子	(広島)	3:03.4	(2:55.0)

100米背泳

1	小椋とみ子	(東京)	1:27.4	(1:26.2)
2	片岡澄子	(奈良)	1:30.0	(1:31.0)
3	小椋とし子	(東京)	1:32.4	(1:32.6)
4	前原トモエ	(福岡)	1:32.4	(1:34.6)
5	加納照子	(京都)	1:33.4	(1:33.4)
6	河村遊津美	(京都)	1:35.2	(1:35.6)
	可兒令子	(兵庫)	キケン	(1:33.4)

200米平泳

1	大野敦子	(東京)	3:16.8	(3:19.0)
2	大石康子	(京都)	3:23.4	(3:21.4)
3	壘谷良子	(兵庫)	3:25.2	(3:25.4)
4	秋田チヅ子	(福岡)	3:26.2	(3:27.2)
5	高野博子	(京都)	3:30.2	(3:25.0)
6	太田ハルミ	(神奈川)	3:33.2	(3:27.4)
7	本田房子	(福岡)	3:33.8	(3:33.6)
8	立花文子	(東京)	3:37.8	(3:35.4)
9	芳川順子	(兵庫)	3:38.4	(3:35.2)

200米リレー

1	奈良	(山下、片岡、吉田、新子)	2:23.4	(2:23.0)
2	東京	(太田、高橋、田邊、塚本)	2:24.8	(2:25.8)
3	岡山	(牧尾、赤木、山本、矢北)	2:25.0	(2:25.6)
4	京都	(宮脇、大石、青木、吉川)	2:25.8	(2:27.4)
5	福岡	(米田、江濱、太田、白石)	2:30.2	(2:29.8)
6	静岡	(森、安倍、西尾、鈴木)	2:31.8	(2:30.4)
7	広島	(佐々木(博)、小林、春田、佐々木)	2:32.4	(2:30.6)
8	神奈川	(松山、伊藤、山中、藤原)	2:38.0	(2:35.0)
9	石川	(田邊、河村、山田、岡田)	2:43.8	(2:41.2)

300米メドレー・リレー

1	東京	(小椋、大野、大田)	4:21.6	(4:24.4)
2	京都	(加納、大石、青木)	4:26.0	(4:34.2)
3	福岡	(前原、秋田、江濱)	4:30.0	(4:34.2)
4	岡山	(山本、角南、牧尾)	4:30.6	(4:39.0)
5	奈良	(片岡、吉澤、新子)	4:11.8	(4:10.0)
6	兵庫	(可兒、壘谷、藤安)	4:43.8	(4:12.4)
7	静岡	(石井、木梨、森)	4:46.6	(4:46.2)
8	神奈川	(杉山、相澤、藤原)	4:48.0	(4:48.6)
9	広島	(黒須、山村、佐々木)	4:50.4	(4:51.4)

得点

①	東京都	40点	②	奈良縣	32点	③	京都府	19点
④	福岡縣	12点	⑤	岡山縣	11点	⑥	静岡縣	11点

青年團府縣對抗 15日 16日

50米自由形

1	長谷川正雄	(北海道)	27.8	(28.8)
2	富田英雄	(鳥取)	28.2	(28.8)
3	安木貞二	(鹿兒島)	28.4	(28.8)
4	曾我忠二	(千葉)	28.4	(29.0)
5	速水正司	(奈良)	28.8	(29.2)
6	川眞田高太郎	(徳島)	28.8	(29.2)
7	白井與八	(東京)	29.2	(29.2)

200米自由形

1	奥野勝人	(福岡)	2:23.8	(2:28.1)
2	西擴	(鹿兒島)	2:23.8	(2:35.4)
3	蓮田榮三	(愛媛)	2:27.4	(2:32.2)
4	小林二郎	(高知)	2:30.6	(2:31.3)
5	萩野節二	(広島)	2:31.0	(2:32.0)
6	江上文雄	(福岡)	2:32.2	(2:32.6)
7	中崎善夫	(茨城)	2:32.8	(2:33.2)
8	五十嵐國雄	(山形)	2:33.2	(2:33.2)
9	安藤朝夫	(岐阜)	2:34.0	(2:31.8)

100米背泳

1	木部俊之	(静岡)	1:14.4	(1:15.8)
2	濱岡昭八	(広島)	1:16.0	(1:16.8)
3	金田三男	(大分)	1:18.8	(1:19.0)
4	橋本巖	(群馬)	1:20.0	(1:21.0)
5	佐藤秀雄	(大分)	1:20.6	(1:21.0)
6	手島岩美	(福岡)	1:21.8	(1:21.6)
7	吉田督	(岡山)	1:22.8	(1:22.4)

100米 平 泳

1	中村仁三	(島根)	1:21.2	(1:22.0)
2	森 巖	(静岡)	1:22.6	(1:24.2)
3	久保嘉男	(高知)	1:23.4	(1:25.6)
4	岡野信三	(和歌山)	1:24.0	(1:24.4)
5	土方正記	(広島)	1:24.2	(1:26.4)
6	中山利生	(茨城)	1:24.2	(1:26.0)
7	洲宮房吉	(千葉)	1:27.0	(1:26.6)

300米メドレー・リレー

1	木部、森、高山	(静岡)	3:44.0	(3:50.4)
2	小谷、久保、小林	(高知)	3:51.6	(3:51.0)
3	上田、洲宮、曾我	(千葉)	3:53.2	(3:55.3)
4	手島、葉室、奥野	(福岡)	3:54.2	(3:56.0)
5	金田、安部、佐藤	(大分)	3:55.4	(3:58.0)
6	高橋、久米、蓮田	(愛媛)	3:56.8	(3:59.0)
7	堀、濱田、西	(鹿児島)	3:57.8	(3:58.2)
8	山崎、川瀬、西山	(長野)	3:59.2	(4:00.0)
9	加藤、松田、長谷川	(北海道)	4:00.0	(3:57.2)

得 点

- ①静岡縣 19點 ②高知縣 12點 ③福岡縣 12點
- ④鹿児島縣 9點 ⑤広島縣 9點 ⑥大分縣 8點

實業團府縣對抗 15日 16日

100米 自由形

1	岩合傳	(京都 大丸)	1:02.4	(1:04.2)
2	太田光雄	(東京 勝村建設)	1:03.0	(1:02.6)
3	太田黒八郎	(福岡 八幡製鐵)	1:03.2	(1:04.0)
4	坂本幸盛	(" ")	1:03.4	(1:03.0)
5	田口正治	(京都 大丸)	1:03.6	(1:02.8)
6	秋永修	(東京 横濱ゴム)	1:01.0	(1:04.0)
7	遊佐正憲	(" ")	1:04.2	(1:03.8)

400米 自由形

1	坂本幸盛	(福岡 八幡製鐵)	5:07.6	(5:06.4)
2	岩合傳	(京都 大丸)	5:20.6	(5:31.2)
3	武藤薫	(愛知 明電社)	5:27.2	(5:30.0)
4	秋永修	(東京 横濱ゴム)	5:31.0	(5:34.0)
5	山下新平	(静岡 東海築業)	5:32.4	(5:34.0)
6	太田光雄	(東京 勝村建設)	5:33.2	(5:33.0)
7	平塚勉	(宮崎 旭化成)	5:34.4	(5:35.8)
8	松田武治	(福井 江商)	5:42.3	(5:40.8)
9	野田亮吉	(静岡 東海築業)	5:49.0	(5:39.0)

100米 背 泳

1	黒佐年明	(福岡 八幡製鐵)	1:14.0	(1:13.8)
---	------	-----------	--------	----------

2	藤井敬次郎	(東京 横濱ゴム)	1:14.8	(1:15.4)
3	鳥居章次郎	(大阪 飯田高島)	1:15.3	(1:16.4)
4	坂本昶一	(宮崎 旭化成)	1:15.3	(1:16.6)
5	佐々木健	(高知 鐵道興業)	1:20.2	(1:19.6)
6	中川昭一	(福岡 八幡製鐵)	1:20.4	(1:20.2)
7	竹本剛	(広島 坂漁業)	1:36.8	(1:17.2)

200米 平 泳

1	藤垣亮太郎	(大阪 近畿産業)	2:54.0	(3:00.6)
2	田畑三郎	(京都 大丸)	3:00.8	(3:06.6)
3	高比良克巳	(長崎 三菱造船)	3:01.0	(3:06.2)
4	佐谷隆治	(福岡 配炭局)	3:05.6	(3:07.6)
5	小槻昌男	(大阪 高島屋)	3:05.6	(3:08.0)
6	荒谷順一	(富山 北海電化)	3:06.4	(3:09.2)
7	掛塚宗一	(長崎 三菱造船)	3:07.6	(3:10.4)
8	安達政治	(静岡 東海築業)	3:11.0	(3:10.6)
9	柳澤榮三郎	(宮崎 旭化成)	3:11.3	(3:10.0)

200米 リレー

1	岩合、藤井、藤本	(京都 大丸)	1:52.2	(1:52.4)
2	秋藤、永井、早遊	(東京 横濱ゴム)	1:54.4	(1:56.6)
3	太田、黒田、坂本	(福岡 八幡製鐵)	1:55.2	(1:54.4)
4	黒田、原坂、宇森	(高知 鐵道興業)	1:56.6	(1:55.8)
5	八丸、周田、木宮	(茨城 日立鑛山)	1:56.6	(1:56.8)
6	青島、木居、柴坂	(大阪 飯田高島)	1:57.2	(1:57.0)
7	松平、田塚、中坂	(宮崎 旭化成)	1:57.4	(1:57.0)
8	木西、原岡、三堀	(岡山 岸本製炭)	1:57.4	(1:57.0)
9	松梅、本川、今軒	(長崎 三菱造船)	1:58.2	(1:57.0)

300米メドレー・リレー

1	藤井、鈴木	(東京 横濱ゴム)	3:41.0	(3:43.6)
2	秋永、佐清	(福岡 八幡製鐵)	3:42.0	(3:44.4)
3	坂本、柳澤	(宮崎 旭化成)	3:45.8	(3:49.0)
4	田口、田畑	(京都 大丸)	3:48.0	(3:51.8)
5	島居、小槻	(大阪 飯田高島)	3:48.0	(3:51.0)
6	宿輪、高比良	(長崎 三菱造船)	3:52.3	(3:57.4)
7	佐々木、木村	(高知 鐵道興業)	3:53.4	(3:49.6)
8	佐津、野内	(広島 縣 廳)	3:57.0	(3:59.4)
9	武島、石井	(兵庫 川崎鐵工)	4:01.4	(3:58.2)

得 點

(選 手 權)

- ①(福岡 八幡製鐵) 31點 ②(京都 大 丸) 29點
- ③(東京 橫濱ゴム) 21點 ④(大阪 飯田高島) 9點
- ⑤(宮崎 旭化成) 7點 ⑥(大阪 近畿産業) 7點

(府 縣 對 抗)

- ①福岡縣 34點 ②京都府 29點 ③東京都 27點
- ④大阪府 16點 ⑤宮崎縣 7點 ⑥高知縣 5點

教員府縣對抗 16日 17日

100米自由形

- 1 井 上 茂 (福 岡) 1:03.4 (1:04.2)
- 2 下 前 純 男 (鹿 兒 島) 1:04.0 (1:03.6)
- 3 本 田 武 次 (千 葉) 1:04.0 (1:03.6)
- 4 池 田 定 (大 分) 1:04.4 (1:06.0)
- 5 滿 田 美 則 (熊 本) 1:04.6 (1:04.8)
- 6 白 井 央 雄 (東 京) 1:05.0 (1:05.2)
- 7 永 岩 清 (鹿 兒 島) 1:05.2 (1:05.8)

200米自由形

- 1 永 岩 清 (鹿 兒 島) 2:27.6 (2:30.2)
- 2 下 前 純 男 (鹿 兒 島) 2:28.0 (2:32.6)
- 3 本 田 武 次 (千 葉) 2:28.4 (2:30.2)
- 4 滿 田 美 則 (熊 本) 2:29.6 (2:29.8)
- 5 池 田 定 (大 分) 2:30.6 (2:34.0)
- 6 山 崎 信 政 (高 知) 2:31.6 (2:36.6)
- 7 白 井 央 雄 (東 京) 2:33.6 (2:34.8)
- 8 大 石 可 久 也 (兵 庫) 2:33.8 (2:35.8)
- 9 大 杉 信 孝 (靜 岡) 2:38.4 (2:36.8)

100米背 泳

- 1 野 島 宏 (靜 岡) 1:13.6 (1:14.8)
- 2 岡 崎 益 美 (熊 本) 1:16.8 (1:18.8)
- 3 本 間 竹 志 (新 潟) 1:18.4 (1:17.2)
- 4 待 鳥 惠 (福 岡) 1:18.6 (1:17.4)
- 5 和 田 幸 八 (兵 庫) 1:20.8 (1:20.4)
- 6 河 端 重 勝 (東 京) 1:22.6 (1:22.8)
- 7 中 村 貞 治 (德 島) 1:23.0 (1:22.8)

200米平 泳

- 1 牧 修 弘 (岡 山) 3:03.6 (3:09.4)
- 2 志 摩 耕 太 郎 (熊 本) 3:09.4 (3:08.0)
- 3 田 村 省 三 (熊 本) 3:09.6 (3:12.6)
- 4 岸 檣 夫 (兵 庫) 3:09.8 (3:10.8)
- 5 富 安 常 夫 (福 岡) 3:10.8 (3:08.8)
- 6 前 田 好 美 (奈 良) 3:11.8 (3:13.4)
- 7 村 橋 信 道 (鹿 兒 島) 3:14.0 (3:15.4)

- 8 高 橋 長 七 郎 (靜 岡) 3:15.6 (3:14.6)
- 9 三 輪 唯 一 (德 島) 3:20.0 (3:15.2)

200米リレー

- 1 待鳥、井上、重藤、富安 (福 岡) 1:55.4 (1:57.2)
- 2 下前、宮之原、蒲地、永岩 (鹿 兒 島) 1:56.8 (1:56.0)
- 3 柿本、横山、山崎、横矢 (高 知) 1:57.2 (1:56.8)
- 4 滿田、安達、田村、岡崎 (熊 本) 1:58.4 (1:59.2)
- 5 清水、櫻井、大薮、小谷 (京 都) 1:59.8 (2:00.6)
- 6 本郷、中西、虫明、岡 (岡 山) 2:00.4 (2:01.8)
- 7 前田、垣田、宮脇、菊本 (鳥 取) 2:01.2 (2:00.6)
- 8 石橋、綾部、白石、本田 (千 葉) 2:03.2 (2:02.0)
- 9 湯野、金田、片山、石井 (東 京) 2:04.6 (2:02.4)

300米メドレー・リレー

- 1 岡崎、志摩、滿田 (熊 本) 3:44.8 (3:48.6)
- 2 待鳥、富安、井上 (福 岡) 3:47.4 (3:51.4)
- 3 野島、高橋、大杉 (靜 岡) 3:49.4 (3:54.2)
- 4 和田、岸、大石 (兵 庫) 3:49.8 (3:55.4)
- 5 行田、林、池田 (長 野) 3:57.0 (4:02.8)
- 6 川野、村橋、下前 (鹿 兒 島) 3:58.6 (4:03.4)
- 7 中村、三輪、吉田 (德 島) 3:59.6 (4:05.4)
- 8 森、森、山本 (滋 賀) 4:07.6 (4:07.2)
- (神 奈 川) キケン (4:07.2)

得 點

- ①熊本縣 29點 ②福岡縣 24點 ③鹿兒島縣 23點
- ④靜岡縣 11點 ⑤兵庫縣 8點 ⑥岡山縣 8點

總 合 得 點

- ①福岡縣 20點 ②靜岡縣 10點 ③東京都 13點
- ④京都府 9點 ⑤熊本縣 7點 ⑥鹿兒島縣 7點
- ⑦高知縣 6點 ⑧兵庫縣 6點 ⑨奈良縣 5點
- ⑩廣島縣 5點

社會人、學生、高校三部對抗 18日

50米自由形

- 1 田 口 正 治 (社 會 人) 26.6
- 2 眞 木 昌 (學 生) 26.6
- 3 上 杉 猛 (學 生) 27.4
- 4 浪 花 欣 吾 (高 校) 27.4
- 5 遊 佐 正 憲 (社 會 人) 27.6
- 6 樋 口 清 治 (高 校) 28.0

100米自由形

- 1 濱 口 喜 博 (學 生) 59.6
- 2 眞 木 昌 (學 生) 59.8

3	丸山茂幸	(學生)	60.8
4	樋口清治	(高校)	1:02.4
5	青山幸郎	(高校)	1:02.6
6	太田光雄	(社會人)	1:02.8
7	吉岡清吉	(高校)	1:03.0
8	小柳清志	(社會人)	1:03.2
9	本田武次	(社會人)	1:05.0

200米自由形

1	丸山茂幸	(學生)	2:16.2
2	東昇	(學生)	2:18.2
3	松岡勝義	(高校)	2:19.8
4	杉原滿弘	(高校)	2:21.6
5	仲村武平	(學生)	2:21.8
6	堂崎治好	(高校)	2:24.6
7	岩合傳修	(社會人)	2:25.0
8	秋永修	(")	2:26.2
9	小柳清志	(")	2:27.4

400米自由形

1	古橋廣之進	(學生)	4:38.4
2	本山昌平	(")	4:55.4
3	藤野健三	(")	4:56.8
4	庄司政雄	(高校)	5:01.2
5	松岡勝義	(")	5:01.6
6	坂本幸盛	(社會人)	5:03.0
7	川口友平	(高校)	5:06.0
8	岩合傳修	(社會人)	5:26.6
9	秋永修	(社會人)	5:32.0

800米自由形

1	田中純夫	(高校)	10:11.6
2	本山昌平	(學生)	10:13.2
3	藤野健三	(學生)	10:14.4
4	杉浦貞夫	(高校)	10:16.4
5	川口義和	(學生)	10:33.0
6	田中寧夫	(高校)	10:34.8
7	村山修一	(社會人)	10:53.2
8	坂本幸盛	(")	10:55.0

50米背泳

1	待鳥敬三	(學生)	32.6
2	黒佐年明	(社會人)	32.6
3	芦田拓郎	(高校)	32.6
4	中島雅好	(高校)	33.4
5	藤井敬次郎	(社會人)	33.8
6	白井孝	(學生)	33.8

100米背泳

1	待鳥敬三	(學生)	1:12.8
2	山本速水	(學生)	1:12.8
3	黒佐年明	(社會人)	1:13.0
4	中島雅好	(高校)	1:13.6
5	藤井敬次郎	(社會人)	1:13.8
6	芦田拓郎	(高校)	1:14.8
7	倉橋範彦	(高校)	1:15.2
8	木部俊夫	(社會人)	1:15.6
9	白井孝	(學生)	1:16.0

100米平泳

1	竹林地文雄	(社會人)	1:14.0(バ)
2	藤岡達昂	(學生)	1:14.2(バ)
3	安東昭次郎	(學生)	1:15.6(バ)
4	清水敏夫	(高校)	1:15.6(バ)
5	荻原孝男	(學生)	1:15.6(バ)
6	吉永清	(社會人)	1:19.6(バ)
7	寺崎博之	(高校)	1:20.8
8	尾崎好孝	(高校)	1:22.0
9	田畑三郎	(社會人)	失格

200米平泳

1	竹林地文雄	(社會人)	2:46.4(バ)
2	山田芳美	(學生)	2:51.6(バ)
3	下坂篤	(學生)	2:51.6
4	宇田久壽秀	(學生)	2:55.6
5	清水敏夫	(高校)	2:55.8(バ)
6	藤垣亮太郎	(社會人)	2:56.6
7	尾崎好孝	(高校)	2:56.6
8	寺崎博之	(高校)	2:56.8
9	田畑三郎	(社會人)	3:03.4

200米リレー

1	學生	(濱口、古橋、丸山、眞木)	1:46.2
2	社會人	(遊佐、太田、村山、田口)	1:47.6
3	高校	(田中、浪速、樋口、吉岡)	1:49.4

300米メドレー・リレー

1	學生	(待鳥、荻原、濱口)	3:25.0
2	社會人	(黒佐、竹林地、小柳)	3:29.4
3	高校	(倉橋、清水、浪速)	3:29.6

得点

①學生 119點 ②高校 51點 ③社會人 46點

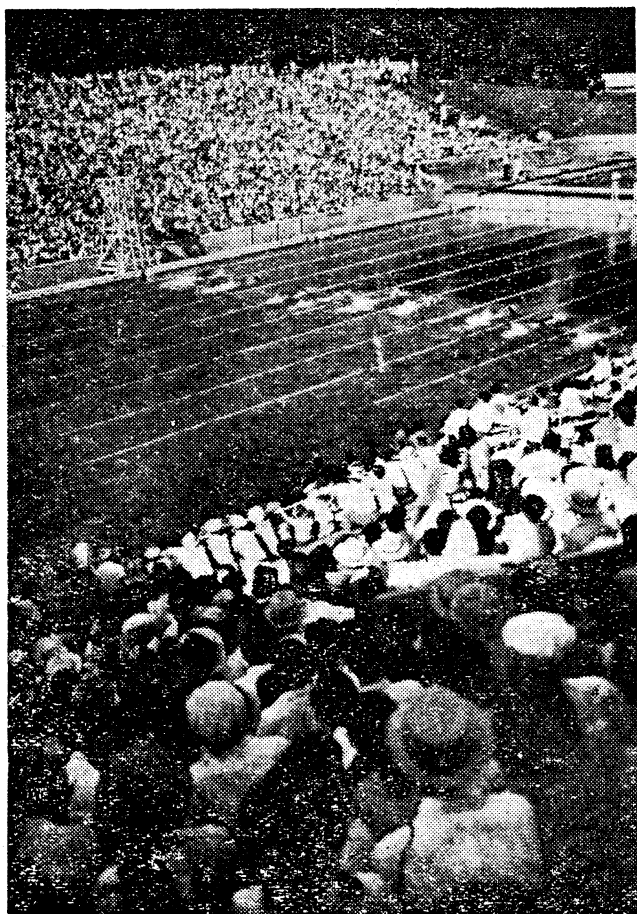
第25回日本學生選手權大會評

長久俊三

今年度日本水泳界の棹尾を飾るインターカレッジは雨天に災いされたが全米大會出場選手を迎えて傳統と氣魄に溢れたレースを見せてくれた。橋爪が不出場であつたが古橋以下の一線選手を網羅する日大の優勝と次いで百米自由形と五十米自由形を除く全種目に得点した早大の二位は當然であつた。續く三位争いも慶の健闘により結局慶明立と昨年通りの結果に終つた。

各レースについて競技順序を追つてふりかえつてみよう。

200米自由形 全米派遣三選手を迎えて東、仲村柳本の挑戦に好レースを演じた。濱口はスタートから、ゆつくりではあるが着實で大きいストロークをもつて59秒臺のラップをものしたが後半やゝ浮き氣味で11秒6をマークした。大した負擔を感ずる



800米自由形決勝スタートより25米附近の接戦

ことなく、この位のラップで入れる事が出来たら7・8秒が狙へるといえよう、遠征の疲労の色濃い村山は丸山に壓えられたが東以下を辛うじて制する事ができた。六位迄が16秒臺に入つたのは、この種目が充實して來た事を如實に示している。

100米背泳 折返しは待鳥、山本、白井の順で殆んど一線。75米邊りでは待鳥僅かに出て來た。山本ラストの追泳も待鳥のピツチに壓えられた。優勝記録は本年度最高で不振のこの種目に明るみがさしたといえよう。

800米自由形 橋爪の缺場で幾分淋しいこの種目も古橋の變らざる力泳に加えて、川口、藤野、本山等の好レースに終始した。途中400米で古橋は全米ラップよりも7秒遅くて彼自身の記録を突破することは斷念せしめられたが最後迄熱意を捨てずスミスの記録を破り超人振りを示した。川口は最初から粘り強く古橋にくつゝいて行こうとしていたが、400米で10米、以後益々差をつけられて惜しくも9分臺に突入出来なかつたが、ベテラン藤野更にこれを破つた日大新人本山の後半のファイトはその記録と共に激賞すべきである。肘が落ちてゐるが手、脚のバランスを特徴とする濱田が好記録で五位に入賞したのは背泳の山本と共に關西水泳界の爲萬丈の氣を吐いたと云うべきだ。

200米平泳 豫選で好記録を出した下坂のオーソドックスも滑り出しに後れてバタフライの竹林地の1分20秒のラップがトップで入つた爲、自信満々たる竹林地の一方的レースとなり、好記録でタイトルを握つたのは努力の賜である。バタフライが目立つて多くなり、然も着々と世界水準に近づきつゝあることは嬉しい。宇田はバランスがくずれ、關根は肩に力が入り過ぎ共に全日本と見違える程泳ぎが悪くなつていたのは残念である。

200米リレー インターカレッジ特有のこの種目も一位の日大は別として二位争いが各校の得点にからんで興味を呼んだが、日大は終止トップに立ち昭和十年以來の早大の日本記録と1秒も短縮したのは偉い。慶は逃げ込み作戦に奏功して上杉、小池の力

泳で早のラスト村山の追撃を退けて二位に入つたのは見事だつた。

50 米自由形 上杉はスタートダツシュに物見せて 25 米邊りまでトップに出ていたが眞木の堅實なストロークに追い抜かれて順當な結果に終つた。記録的には淋しい気がする。

400 米自由形 100 米では古橋に 5 米の差で、川口、藤野、東、本山、村山、濱田の順で殆んど一線 200 米では古橋と二位川口は 8 米の差、300 米では藤野、川口を 12 米離し、ラストでは古橋は素晴らしいピッチでスパートしたが惜しくも世界記録を逸した。前半の速かつたことが禍いしたが、一年中を常にトップコンディションに保つ事は不可能で寧ろ遠征後にもかゝらずあれだけの力量を示した事に對して今更ながら 世界第一人者としての熱意を賞したい。川口は全日本のときも同様に豫選、準決は素晴らしい滑り出しを見せている。昨日の 800 米に比較して今日の 400 米は 300 にかゝる頃から バテ氣味で四位に落ちたのは氣の毒である。藤野は考巧にジリジリピッチを上げて二位に喰ひ込み 新進本山はラストファイニッシュに上位入賞し 共に好記録で長距離日本の將來を約束出来る。準決にベストフイフスで辛くも入選した村山は 遠征の疲勞覆うべくもなく決勝は六位で入賞したが同情に堪えぬ。

100 米自由形 折返しは 僅かに濱口リードして眞

木、丸山、上杉の順。濱口は後半割合にピッチ上らず。丸山例の早い調子で後半頑張を見せたが、75 米を過ぎる頃から 眞木がスパートしてグングン濱口に迫り今一息の處で逃げ込まれてしまつた。眞木がタッチに丸山を壓えたのは殊勳である。仲村は後半上杉を制したとは云え、滑り出しの研究が望ましい。

50 米背泳 ダークホースに興味を呼ぶインターカレッジでこの種目に白井が優勝した事は 慶にとつて幸運であつたと云えよう。記録は立派な優勝記録と云えるが、待鳥、山本のスプリントに一層の研究を期待したい。長身の白井もピッチを上げる様心掛ければ將來性もてる。

100 米平泳 この種目は完全にバタフライの獨り舞臺となつてしまつた。萩原はスタートがよく滑り藤岡、安東、飯田、竹林地を壓えていた。折返後出足の後れていた竹林地は スピードを増して萩原に迫つたが、終始ピッチをゆるめぬ萩原のために制せられて敗退した。各泳者共コンスタントの記録が出ないのはバタフライにとつて一研究課題であらう。

800 米リレー 最後を飾るこのリレーで、日大の優勝は動かぬもので、早の二位につぐ三校の争いが寧ろ興味を中心であつた。慶は逃げ込み作戦で第三泳者迄、日早に次いでいたが、ラスト明の川口は、立の杉本慶の白井を抜いて最後を飾つた。

次ぎに各校の得點と記録を拾つて見よう。

得 點 表

		200米 自	100米 背	800米 自	200米 平	200米 リレー	50米 自	400米 自	100米 自	50米 背	100米 平	800米 リレー	計	順位
日	大	15	3	11	8	7	10	13	16	3	10	7	103	1
早	大	5	10	4	2	4	—	6	—	5	5	5	46	2
慶	大	—	4	—	—	5	5	—	3	10	—	2	29	3
立	大	2	—	—	5	3	—	—	3	—	2	3	18	5
明	大	—	—	5	7	2	—	3	—	—	5	4	26	4
立	大	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中	大	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	10
法	大	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	—	4	4
教	大	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
關	大	—	5	—	—	—	—	—	—	4	—	1	10	6
同	大	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	2	9
關	大	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	3	8
三	大	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鹿	大	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第 25 回日本學生選手權水上競技大會

9 月 9 日 氣溫 31°5 水溫 27°
 10 日 28° 26° 明治神宮プール 50 米公認
 11 日 26° 25°

200 米 リレー

豫選

A 組

1	眞木、濱口 丸山、古橋	(日 大)	1:49.4
2	安藤、谷合 待鳥、村山	(早 大)	1:51.6
3	吉永、赤檉 小池、上杉	(慶 大)	1:53.2
4	山田、柴崎 大古、石井	(中 大)	1:55.8

B 組

1	仲村、天野 鈴木、井上	(立教 大)	1:51.8
2	池本、野田 伊藤、伊海	(明 大)	1:54.0
3	竹下、沖 植月、山本	(關學)	1:55.2
4	種子島、箱部 櫻井、山本	(關 大)	1:58.0

決勝

1	眞木、丸山 濱口、古橋	(日 大)	1:45.0 (日本新)
2	上杉、白井 松本、小池	(慶 大)	1:50.6
3	安藤、柳本 待鳥、村山	(早 大)	1:51.2
4	仲村、天野 鈴木、井上	(立 大)	1:51.6
5	伊海、伊藤 池本、川口	(明 大)	1:54.0
6	山田、柴崎 大古、石井	(中 大)	

50 米 自由形

豫選

A 組

1	山本 新吾 (關 大)	28.2
2	小杉 德雄 (日 大)	28.4
3	井上 正己 (立 大)	28.6

B 組

1	上杉 猛 (慶 大)	27.2
2	谷合 繁男 (早 大)	28.0
3	福富純一郎 (同 大)	28.6

C 組

1	木本 彰 (日 大)	28.2
2	伊海 連作 (明 大)	28.6
3	土元昭一郎 (鹿兒島大)	29.6

D 組

1	古橋 條司 (日 大)	29.0
2	山本 高英 (同 大)	29.6
3	沖 階吉 (關 學)	29.6

E 組

1	眞木 昌 (日 大)	27.2
2	樋野 二郎 (教 大)	28.4
3	竹下 和郎 (關 學)	29.2

準決勝

A 組

1	上杉 猛 (慶 大)	27.2
2	小杉 德雄 (日 大)	27.6
3	木本 彰 (日 大)	28.4

B 組

1	眞木 昌 (日 大)	26.8
2	山本 新吾 (關 大)	27.4
3	樋野 二郎 (教 大)	28.2

決勝

1	眞木 昌 (日 大)	27.0
2	上杉 猛 (慶 大)	27.6
3	樋野 二郎 (教 大)	27.8
4	山本 新吾 (關 大)	27.8
5	小杉 德雄 (日 大)	28.0
6	木本 彰 (日 大)	28.4

100 米 自由形

豫選

A 組

1	仲村 武平 (立 大)	1:01.0
2	小池 哲雄 (慶 大)	1:01.6
3	伊海 連作 (明 大)	1:03.4

B 組

1	丸山 茂幸 (日 大)	1:00.4
2	谷合 繁男 (早 大)	1:02.4
3	中瀬 清 (明 大)	1:03.4

C 組

1	濱口 喜博 (日 大)	59.8
2	山本 新吾 (關 大)	1:01.8
3	柳本 隆 (早 大)	1:02.4

D 組

1	木本 彰 (日 大)	1:02.6
2	鈴木 清 (立 大)	1:03.6

3	遠藤進之助 (早 大)	1:05.2
---	-------------	--------

E 組

1	眞木 昌 (日 大)	1:00.0
2	上杉 猛 (慶 大)	1:01.2
3	安藤 實 (早 大)	1:03.2

準決勝

A 組

1	眞木 昌 (日 大)	1:01.2
2	仲村 武平 (立 大)	1:02.4
3	小池 哲雄 (慶 大)	1:02.4

B 組

1	濱口 喜博 (日 大)	59.2
2	丸山 茂幸 (日 大)	59.6
3	上杉 猛 (慶 大)	1:01.4

決勝

1	濱口 喜博 (日 大)	58.8
2	眞木 昌 (日 大)	59.2
3	丸山 茂幸 (日 大)	59.2
4	仲村 武平 (立 大)	1:01.0
5	上杉 猛 (慶 大)	1:01.6
6	小池 哲雄 (慶 大)	1:01.6

200 米 自由形

豫選

A 組

1	濱口 喜博 (日 大)	2:15.6
2	仲村 武平 (立 大)	2:17.2
3	松本 弘 (慶 大)	2:20.6

B 組

1	東 昇 (日 大)	2:20.2
2	安藤 實 (早 大)	2:20.4
3	天野 靜二 (立 大)	2:24.4

C 組

1	村山 修一 (早 大)	2:21.2
2	丸山 茂幸 (日 大)	2:21.8
3	鈴木 清 (立 大)	2:24.4

D 組

1	柳本 隆 (早 大)	2:17.8
2	徳重 里司 (日 大)	2:20.2
3	小池 哲雄 (慶 大)	2:20.2

準 決 勝

A組

1	仲村 武平 (立 大)	2:15.8
2	丸山 茂幸 (日 大)	2:16.4
3	柳本 隆 (早 大)	2:17.0
4	東 昇 (日 大)	2:17.2

B組

1	濱口 喜博 (日 大)	2:15.6
2	村山 修一 (早 大)	2:17.4
3	小池 哲雄 (慶 大)	2:21.0
4	安藤 實 (早 大)	2:21.6

決 勝

1	濱口 喜博 (日 大)	2:11.6
2	丸山 茂幸 (日 大)	2:14.4
3	村山 修一 (早 大)	2:15.6
4	東 昇 (日 大)	2:15.8
5	仲村 武平 (立 大)	2:16.2
6	柳本 隆 (早 大)	2:16.6

400 米 自 由 形

豫 選

A組

1	東 昇 (日 大)	4:59.6
2	江崎 秋夫 (早 大)	5:02.2
3	高橋 武夫 (慶 大)	5:08.4

B組

1	藤野 健三 (早 大)	4:53.2
2	本山 昌平 (日 大)	4:54.6
3	濱田 芳夫 (同 大)	4:54.6

C組

1	中山 順一 (日 大)	4:57.6
2	村山 修一 (早 大)	5:02.8
3	林 法正 (明 大)	5:03.0

D組

1	古橋廣之進 (日 大)	4:49.6
2	川口 義和 (明 大)	5:10.4
3	田造 勝美 (早 大)	5:11.8

準 決 勝

A組

1	川口 義和 (明 大)	4:53.4
2	東 昇 (日 大)	4:54.8
3	藤野 健三 (早 大)	4:55.0
4	本山 昌平 (日 大)	4:55.0
5	村山 修一 (早 大)	4:59.8

B組

1	古橋廣之進 (日 大)	4:49.4
2	濱田 芳夫 (同 大)	4:58.0

3	田造 勝美 (早 大)	4:58.8
4	中山 順一 (日 大)	5:05.6

決 勝

1	古橋廣之進 (日 大)	4:35.8
2	藤野 健三 (早 大)	4:50.0
3	本山 昌平 (日 大)	4:51.0
4	川口 義和 (明 大)	4:51.2
5	東 昇 (日 大)	4:53.4
6	村山 修一 (早 大)	4:54.2

800 米 自 由 形

豫 選

A組

1	古橋廣之進 (日 大)	10:10.2
2	濱田 芳夫 (同 大)	10:16.6
3	江崎 秋夫 (早 大)	10:35.6

B組

1	田造 勝美 (早 大)	10:23.0
2	中山 順一 (日 大)	10:30.0
3	林 法正 (明 大)	10:45.0

C組

1	川口 義和 (明 大)	10:07.6
2	藤野 健三 (早 大)	10:12.6
3	本山 昌平 (日 大)	10:13.8

決 勝

1	古橋廣之進 (日 大)	9:43.4
2	川口 義和 (明 大)	10:03.6
3	本山 昌平 (日 大)	10:09.6
4	藤野 健三 (早 大)	10:09.6
5	濱田 芳夫 (同 大)	10:12.2
6	田造 勝美 (早 大)	10:15.8

50 米 背 泳

豫 選

A組

1	山本 速水 (關 學)	32.6
2	赤樫 卓爾 (慶 大)	32.6
3	榎谷 周二 (日 大)	34.0

B組

1	杉村 了 (日 大)	33.4
2	大古 敬宜 (中 大)	34.0
3	足立 行敏 (早 大)	35.0

C組

1	待鳥 啓三 (早 大)	32.0
2	伊藤 功 (明 大)	35.4
3	曾根 嘉夫 (同 大)	35.4

D組

1	白井 孝 (慶 大)	33.4
---	------------	------

2	町野 和男 (日 大)	34.2
3	永瀬 守次 (關 學)	34.6

準 決 勝

A組

1	山本 速水 (關 大)	32.8
2	白井 孝 (慶 大)	33.2
3	杉村 了 (日 大)	33.4

B組

1	待鳥 啓三 (早 大)	32.4
2	赤樫 卓爾 (慶 大)	33.4
3	榎谷 周二 (日 大)	34.0

決 勝

1	白井 孝 (慶 大)	32.2
2	待鳥 啓三 (早 大)	32.8
3	山本 速水 (關 大)	32.8
4	赤樫 卓爾 (慶 大)	33.2
5	杉村 了 (日 大)	33.4
6	榎谷 周二 (日 大)	33.4

100 米 背 泳

豫 選

A組

1	赤樫 卓爾 (慶 大)	1:14.4
2	出口 靖 (日 大)	1:16.6
3	曾根 嘉夫 (同 大)	1:16.6
4	伊藤 功 (明 大)	1:17.8

B組

1	山本 速水 (關 學)	1:11.8
2	白井 孝 (慶 大)	1:13.4
3	町野 和男 (日 大)	1:15.0
4	足立 行敏 (早 大)	1:16.8

C組

1	待鳥 啓三 (早 大)	1:11.0
2	榎谷 周二 (日 大)	1:13.6
3	大古 敬宜 (中 大)	1:14.2
4	杉村 了 (日 大)	1:15.2

準 決 勝

A組

1	山本 速水 (關 大)	1:13.0
2	足立 行敏 (早 大)	1:15.2
3	榎谷 周二 (日 大)	1:15.2

B組

1	白井 孝 (慶 大)	1:14.2
2	町野 和夫 (日 大)	1:15.2
3	待鳥 啓三 (早 大)	1:15.2

決 勝

1	待鳥 啓三 (早 大)	1:10.8
2	山本 速水 (關 大)	1:11.4

3	白井 孝 (慶大)	1:13.6
4	足立 行敏 (早大)	1:15.0
5	町野 和夫 (日大)	1:15.0
6	榎谷 周二 (日大)	1:15.4

4	安東昭次郎 (日大)	1:15.8(バ)
5	山田 芳美 (立大)	1:16.2(バ)
6	飯田俊太郎 (早大)	1:17.8(バ)

4	宇田久壽秀 (日大)	2:51.4
5	關根善次郎 (早大)	2:51.6
6	杉山 祐二 (立大)	2:51.8

100米 平 泳

豫 選	
A組	
1	竹林地文雄 (明大) 1:14.4(バ)
2	下坂 篤 (日大) 1:16.3
3	飯田俊太郎 (早大) 1:17.2(バ)
B組	
1	萩原 孝男 (日大) 1:16.0(バ)
2	關根善次郎 (早大) 1:19.6
3	菊地 良太 (明大) 1:19.8(バ)
C組	
1	安東昭次郎 (日大) 1:14.0(バ)
2	藤岡 達昂 (早大) 1:15.0(バ)
3	山田 芳美 (立大) 1:17.0(バ)
D組	
1	吉永 清 (慶大) 1:16.0(バ)
2	宇田久壽秀 (日大) 1:18.2
3	杉山 祐二 (立大) 1:18.6

準 決 勝

A組	
1	萩原 孝男 (日大) 1:14.6(バ)
2	竹林地文雄 (明大) 1:15.8(バ)
3	飯田俊太郎 (早大) 1:16.8(バ)
B組	
1	藤岡 達昂 (早大) 1:15.0(バ)
2	安東昭次郎 (日大) 1:15.6(バ)
3	山田 芳美 (立大) 1:16.4(バ)

決 勝

1	萩原 孝男 (日大) 1:13.8(バ)
2	竹林地文雄 (明大) 1:14.8(バ)
3	藤岡 達昂 (早大) 1:15.0(バ)

200米 平 泳

豫 選	
A組	
1	下坂 篤 (日大) 2:47.6
2	竹林地文雄 (明大) 2:49.2(バ)
3	關根善次郎 (早大) 2:53.0
4	原 茂樹 (立大) 2:56.2
B組	
1	山田 芳美 (立大) 2:48.2(バ)
2	宇田久壽秀 (日大) 2:49.8
3	坂本 幸男 (關學) 2:55.0
4	飯田俊太郎 (早大) 2:58.4(バ)
C組	
1	杉山 祐二 (立大) 2:50.0
2	五味 茂雄 (日大) 2:51.8
3	安東昭次郎 (日大) 2:55.8(バ)
4	宮澤 正夫 (早大) 2:57.0

準 決 勝

A組	
1	山田 芳美 (立大) 2:50.2(バ)
2	宇田久壽秀 (日大) 2:51.6
3	五味 茂雄 (日大) 2:51.8
4	原 茂樹 (立大) 2:57.2
B組	
1	竹林地文雄 (明大) 2:45.8(バ)
2	下坂 篤 (日大) 2:51.0
3	關根善次郎 (早大) 2:51.0
4	杉山 祐二 (立大) 2:51.4

決 勝

1	竹林地文雄 (明大) 2:44.6(バ)
2	下坂 篤 (日大) 2:48.0
3	山田 芳美 (立大) 2:50.0(バ)

800米 リ レ ー

豫 選	
A組	
1	日 大 眞木、小杉 9:57.8
2	慶 大 川畑、濱口 9:55.6
3	同志大 高橋、松本 10:02.2
4	中央大 白井、小池 10:12.4
	盛本、鹽野
	竹中、濱田
	石井、佐藤
	柴崎、大古
B組	
1	明 大 林、伊海 9:25.8
2	早 大 中瀬、川口 9:29.4
3	立 大 田造、谷合 9:40.8
4	關學大 藤野、鈴木 9:56.0
	天野、鈴木
	曾我、仲村
	植月、高島
	沖、山本
決 勝	
1	日 大 眞木、濱口 8:53.6
2	早 大 丸山、古橋 9:17.0
3	明 大 柳本、藤野 9:25.6
4	立 大 田造、村山 9:26.6
5	慶 大 林、伊海 9:28.8
6	關 大 仲村、天野 9:50.0
	曾賀、鈴木
	小池、上杉
	松本、白井
	沖、高島
	山本、植月

得 點	
日本大學	103點
早稻田大學	46點
慶應義塾大學	29點
明治大學	26點
立教大學	18點
關西學院大學	10點

第 1 回福岡三地區對抗水上競技大會

6月5日 大谷プール(50米)公認 (氣温 26°) (水温 22.5°)

100米 自 由 形

1	井上 茂 (朝倉高)	1:03.8
2	太田黒八郎 (八幡製鐵)	1:03.8
3	奥野 勝人 (飯塚炭坑)	1:05.2

200米 自 由 形

1	太田黒八郎 (八幡製鐵)	2:26.0
2	江上文雄 (")	2:26.4
3	與田博利 (傳習館)	2:28.4

400米 自 由 形

1	坂本幸盛 (八幡製鐵)	4:59.4
2	田中寧夫 (明善高)	5:04.2
3	横田信明 (傳習館)	5:25.2

800米 自 由 形

1	田中寧夫 (明善高)	10:39.4
2	坂本幸盛 (八幡製鐵)	10:52.4

(20頁〜續く)

末弘杉本兩顧問還暦を祝う

前連盟會長末弘嚴太郎博士と杉本傳氏の連盟兩顧問が 24 年に還暦を迎えられたので兩先生に最もなじみの深い方々に思い出をつとつてもらつた。(末弘顧問は 24 年末名譽會長になられた)

末弘先生の還暦に 水泳の賀を捧げる

松澤一鶴

今年の日本選手権大會は NSR が FINA への復歸後最初のものとなつた上 遺米選手の豫選會ともなつて、終戦後最も活氣ある競技會であつたばかりでなく、その第二日七月二十二日の夕刻には NSR 創立以來の宿望であつた天皇皇后兩陛下を明治神宮プールに御迎えする事が出来て、一層記念すべき會とはなつたのであつたが、しかしその日は更に特色ある一つのプログラムが加えられた。前會長末弘嚴太郎博士の還暦の祝が競技の間に行はれ、田畑現會長から赤いスポーツ・スーツを贈つて、和やかな雰圍氣の内に末弘先生から感想と謝辭を述べられて式を終了したのであつた。

先生の心持から云われるならば「還暦なんてものは人の意志を無視してやつてくるもんだからねえ…君」などと、頭から否定論でも持ち出される所ではあるまいかと心配して居たが、中央労働委員會その他多くの團體からの多數決に依つて一應承認済みのこととて、氣持よく我々の祝を受けて下さつたことの方が御芽出度いことであつたかも知れぬ。しかし先生が昭和五年の極東大會の折に自らマイクロフォンに向つて、「皆さんの座席を皆さんの手で作つて下さい」と云う名演説以來、自分で苦心して作り上げたあの明治神宮水泳場で、時には叱つたこともある萬餘のファンを前にして、共に苦勞をした水泳連盟の役員に圍まれて、先生の賀歴に萬雷の拍手を贈つた事は、何と云つても芽出度さを感じずには居られぬ。

何故ならば先生の六十年の壽の中に日本の近代水上競技史はすつぽり納つて終るのであつて、しかも小學校時代から東京濱町河岸の水府流太田派遊泳場

に通われ、(舊)開成中學及一高の房州水泳部を経て、その後の水泳團體の中心となつて過されたことは、殆ど水上競技史の中核にばかり關係して居たことになり、先生の還暦を祝うことは、同時に自分達水泳

人が新しく築き上げた半世紀の水上競技史と先生を中心として、我等自ら喜んで居る姿であることをそこに見出し、これ程ピッタリとした雰圍氣の内にこれ程の芽出度さを盛り上げた行事は、今度が始めてであつたと思わざるを得ない



末弘嚴太郎氏

いからである。これも亦れが水泳史に記録しなければならぬと考え、敢えて筆をとつた次第である。

水連には先生から寄贈を受けた明治三十一年の水府流太田派對横濱外人第一回競泳のプログラムが保管してあるが、この試合を見た先生は當時十歳位であられた筈である。そして日本の近代水上競技史はどうしてもここから筆が初まるのである、そして先生は最近になくなられた加福均三氏と共に開成中學の同窓でしかも水泳部まで一緒であつたのだが、この開成中學の水泳部が太田派と一高水泳部に密接な關係にあり、中學時代から最も正しい水府流を一番嚴格な方法で練習された譯で、明治三十九年に一高に入學する前に既に水府流は飛込をも加えて名手の域に入つて居られた譯であるが、たゞ古式の型をやつたと云うだけでなく、房州の濱に於ける關東遊泳大會では一回から技の方でも競技の方でも大活躍をして、後には一高水泳部の助手がら師範までやつて居られる。大學時代も殆ど夏は一高水泳部の指導を

し、故梅澤親光氏等と共に佐々木救、飯田光太郎、石本已四雄、齋藤武五郎、澤田武治、津田正夫等、水連の重要な役員となつた人達を取り上げ、當時既にオリンピックの発展を見まもつて競泳方面を研究実施して居るのである。

たゞ筆者自身も中學時代から一高水泳部に遊びに行つた方の部類であるが、私が行つた頃には既に先生は外遊中であり、たゞ僅かに關東水泳大會の晩餐會の席上で、先生の米國からの通信を梅澤親光氏があの巧みな話術で見てもつて読み上げ、それでデューク・カハナモクやノルマン・ロツスの物凄い泳ぎ振りを見たようなつもりで感激したことを記憶するのみである。少し時間のかゝつた實況放送だと思えばよい譯であろう。

そして大正十一年に全國學生水上競技連盟が創立されたが、なかなか中心人物が得られず十二年に至つて漸く組織化され、末弘先生の歸朝を待つて漸く會長となつて頂いたように聞いて居る。この頃は水泳ばかりでなく日本の競技界全體が混沌として居つた時代であるから、先生の組織指導者としての責任は重大であつて、翌年は學生ばかりでなく各地區の水泳團體を作るよびかけをやり、關東水泳協會の結成を行い、その年の秋、即ち大正十三年十月卅一日にわが水泳連盟の前身である大日本水上競技連盟の創立をなし遂げたのであつたが、當時若い労働學者として期待された先生は現役主義を主張されて、關東水泳協會も主事、水連は假主事として發足し、直ちに明治神宮體育會と大日本體育協會に働きかけ、關東の飯田光太郎、濱名の田畑政治兩氏と共に水上連盟の獨立闘争を開始、内には學連を含めて實力涵養の實行に移つたのであるが、創立早々のこととしてその苦心は大變なものであつた。外部に對する交渉學聯方面の人事の問題、隨分時間のかゝる仕事であり、數多くの危機の最初のものがこゝいらにあつたようであるが、第一線に自ら活躍して、遂に一九二八年國際水泳連盟への加盟、學連との合同等の組織完了を見る迄、とにかく第一線に働く會長の先例を作られた。

會長の役名は確か昭和二年頃になつて相當連盟が組織化されてから、定められたのであつたが、とにかく先生の水泳界に於ける會長職は學連に於ける大正十一年から實質的に定つて居たものであつて、昨昭和二十三年、田畑君に引繼ぐまで實に二十七年間一ジェネレーションを、半生を献げて下さつたと云

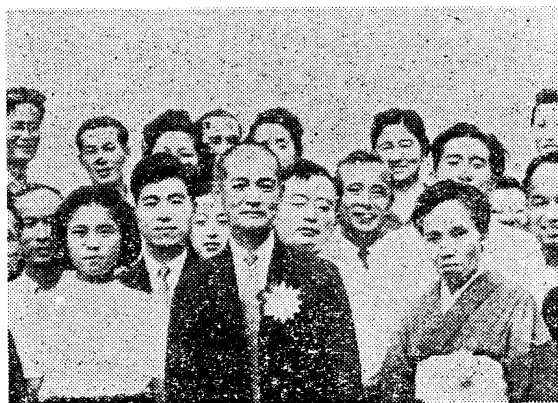
うことは偉大な犠牲ではあるまいか。この間に日本の水泳界は世界の水準に跳ね上つたのだ。勿論その間に尙幾つかの危機もあつた。けれども先生とわれわれとで力を合せて今日まで、どうにかうまく切り抜けてやつて來ることが出來た。私はこうした心持である大會の日に神宮プールの眞中に立つて居られる先生の輝くばかりの姿を、日本の水泳史の一つの心柱として心から祝福せずに居られなかつたのである。そして先生に還歴などは別なことであつても差支えないから、われわれの水泳的な喜と祝を御受け下さいと重ねて御願ひする次第である。

* * *

杉本先生の思いで

高石勝男

杉本先生が今年目出度く還暦の歳を迎へられたので其のお祝に先生と水につながる者が集つて先生を



杉本傳氏

中心に泳いだり飛込んだり水球のゲームをして愉快にプールで一日を過すのが先生に一番よろこんで頂けると云うので去る九月二十三日の旗日を選び日本水泳連盟關西支部並に茨木水泳團の主催の下に祝賀の水泳大會が甲子園プールで行われた。

當日連盟本部からもお祝ひが贈られ亦來賓の諸氏から祝辭があつて過去三十數年に亙り先生が我が水泳界に盡された功績が次々と述べられて先生に餘りなじみのない若い人々にも深い感銘を與へた様であつた。

當日參集したものは當地方に在住する水泳關係者を網羅して非常に盛會であつた。早朝から日没まで競泳に飛込に水球に各流派の日本泳法に色んな水中の餘興まであつて誠になごやかに水の一日を終へて

先生も心から御満足の様に見受けられた。

私が茨木中學に入學したのは丁度三十一年前の大正八年の春であつたから先生も三十代の最も元氣盛んな時代であつた譯である。先生は體操と柔道と音楽を教えられていたが茨木中學の校紀は先生ひとりで保たれていたと云つてよい程、どんな生意氣盛りの暴れん坊でも先生の目の光つている處では虎の前の猫にも等しかつた。と云つて先生が生徒をなぐつたり大きな聲を出されるのを見た事は一度もなかつた。只あの大きな目でデロリとにらまれるだけで生徒は皆小さくなつていたものだ。

茨木中學のプールは大正四年に掘られたので私が入學した時にはもうきれいな水をたぐえていた。當時はプールと云つても周圍は木杭を打つて板で圍つた程度の粗末なもので兩岸に木のスタート臺がさみしく立つていた。大阪府の指令で夏期中に生徒を海へ連れてゆくのに多額の旅費がかかるのを節約する爲學校の直ぐ横を流れる茨木川の清流を利用して校庭に池を掘る事を先生が提案されて實現したのがこの日本で一番古い歴史を持つプールなのである。そう云う目的の爲に造られたので私が入學した頃は確か五〇米に六・七米足りない半端な大きさであつた。處がプールが出来ると水泳の上手な者が出て来て試合に参加する様になり五〇米でないと不便だと云うので先づ其の改良工事が行われ、次いでプールの兩端がコンクリートになり翌年は兩サイドが次に底が何回かに分けてコンクリートにと云う様に次々と改良されて私の在學五ヶ年の中に見違える様に立派なプールになつた。こうしたプールの工事は最初の掘り初めからすべて先生の監督の下に生徒の勤勞奉仕で出来たものである。

全校生徒は體操の時間には一人残らず籠をかついで砂やバラスを運んだりスコップで土を掘つたりコンクリートをねつたり完全に土工の仕事させられた。尙其の上に毎日各學年が交代して二時間程度の殘業をさせられたものだつた。只つらい事には秋の終りまで練習をするのでプールの工事は寒中に限られて寒風の吹きすさぶ中を體操服に裸足(當時茨木中學の生徒は年中校内では裸足であつた)で土方作業はかなりつらかつた。中でも水の中にはいつて砂とバラスを選別する作業やコンクリートをねる一番冷くて疲れる作業は常に水泳部員の役目であつた。

關東に大震災のあつた當時東京で有名な選手だつたK君兄弟が茨木中學へ轉校して來たが一冬の砂運

び作業にこりて早速東京へ逆戻りしてしまつた。幸い茨木の生徒は殆んどが農家の子供であつてまさか家では何の手傳いもしないだろうがそうした仕事は見慣れているのでさして不平も云わずに耐えたのだと思う。私共は二時間程で終りだが先生も薄い體操着一枚に私共同様はだして終日茨木川の堤の上で監督しておられたのだから其のつらさはなまやさしいものではなかつたろうと想像する。茨木のプールは斯くして出来たのである、プールを自分の命より大切にされる先生の前には側で見るつらさも問題ではなかつたのかも知れない。

今先生は茨木の北部春日の丘で百姓をしたり謡曲と書道茶道の指導をしたりお能の研究をして餘生を送つていられる、お家の中には古びた池のほとりに立派な茶室があつたり能の稽古場があるかと思えばお座敷の前には小さなプールがあつて夏先生のお宅え伺う者は誰彼なく泳がされる。亦裏の方には牛小屋があつてよく肥つた牛が一匹飼つてある、この牛で先生が田を耕したり時には牛車をひいて大阪市内へ肥をくみ取りに行かれる。或る時牛車をひいての歸り途長柄の橋の上で牛車の前に腰かけて牛の悠々たる歩みにまかせて謡曲をうたつて居られるのをお巡りさんがとがめたがほくかむりをとると先生だつたのでお巡さんが驚いたと云う逸話がある。これが先生の只今の御生活である。自分は學校にいる間生徒に土方仕事ばかりさせた報いで今になつて自分が苦しい土をさわる仕事をしなければならぬのだと述懐されたとの事だから先生が餘生を送る一面として計畫的にはいられた百姓仕事も慣れない先生には過勞なのではなからうかと秘に心配しているのは私ひとりではないだろう。

私共水泳部の連中は先生に非常によくいたわつて頂いたが水泳の練習となると實に嚴格そのものだつた。時には悪友に誘われて練習を怠け様として今日は頭痛がするとか腹痛だとか色んな理由で先生に断りを云うと運悪くレースの日に頭痛や腹痛になると困るからその様なコンディションの時に君はどんな記録で泳げるか試して見ようと云われていや應なしに裸にされ一五〇〇米のレースコースをひかされたり普通以上に泳がされるので誰も逃げ口上を云う者はいなくなつた。

私共は全國に魁けて先生からクロールの指導を受けたので茨木の小さな子供達が各所の大會で優勝を續ける事が出来た。それがやがて横泳ぎに専念して

いた我が水泳競技會に革命を起し急速に近代泳法が全國に浸透する基となりやがては世界制覇の糸口となつたのである。先生は巴里のオリムピック以來飛込と云う新しい方面の開拓に専念され次のオリムピックには教え子の一人である辻君(舊姓高階)を世界的な飛込選手として活躍し得る迄に完成された。

それ以來先生は水球の研究と女子の水泳の發育に没頭されてこれまた坂上君其の他の優秀な選手を多數オリムピックに送られた。こうして次々と目を新しい面に轉じ其の何れに於いても自分の手で世界的に活躍し得る選手を育成して今日の我が水泳發展の大きな土臺を造られたのは衆知の事實だがそうした大事業を爲された蔭には我々の想像に絶する御苦心があつたに違いない。先生はいつの場合でも慈父の様な微笑をされるだけで永年身近にいる私にすら其の御苦心については一言も語られた事がない、然しながら私は先生がどれ程水泳に對し深い深い愛情と烈々たる熱意を持つていられるかを一番よく承知している。先生の我が水泳界に贈られた大きな礎石はすべてこの愛情と熱意の結晶に他ならない。

茨木川の水ぬくむ四月ともなれば私共に一度でも其の半分でも暖い水で泳がせる爲日中の川水の溫度を絶えず計つて暖い川水をプールに入れる爲先生の他は誰ひとり水門に觸れるのを禁じられた。盛夏には夜中に樋門を開閉して私共が少しでも冷い水で泳げる様に苦心された、渴水期ともなれば百姓さんがプールの水栓を抜きに来るのでそんな頃は殆ど夜通しプールに頑張つて監視しておられた。私も一度眞夜中先生につれられて茨木川の上流で水を堰どめてある土堤を切りに行つたのを覚えているが先生がプールの管理人に人知れず夜を徹しられたのは幾回あつた事だろう。極東大會が大阪で行われた大正十二年には茨木のプールの中を土堤で仕切つて二十米の小さいプールを假設して周圍は板張り上は天幕を張り之に大きな錢湯の釜を据えて立派な室内プールを造られた。この大會で日本チームが初めて常勝の比島チームに大勝して氣勢を上げたのだが其の時の日本チームの得點の過半數を茨木中學の選手が稼いだのもこの室内プールで春早くから充分な練習が出来たからである。

この様にしてシーズン中は元より冬期間の私共の練習に對する方法は間斷なく先生が研究されて私共は只それに従つていればよかつた。茨木にある二つの錢湯の主人を説得されてお湯が充分沸く前に毎日湯槽の中でバタ足の練習を冬中やらせられたのも其

の一つだ、飛込の練習でも陸上に一米のスプリングボードを設備して水の代りに砂を敷き暖い輕装で水の場合と同じ様に自由自在に練習が續けられた。只選手の腰部に頑丈な革帶が締められ腰の兩側に綱が結びつけてあつて上方の滑車を通つて綱の端を先生が持つていられた。飛込の動作に従つて綱を締めたり出したり常に綱がゆるまない程度に加減して最後に入水の姿勢になつた時ぐつと強く留めて安全に砂の上で手が着くと云う仕掛であるがこうした烈しい練習が冬期中繰り返されて多數の優秀な選手を出されたのであつた。亦先生は飛込の練習中手足の關節の自由に動く人形をもつてきて選手の缺點を飛込の度毎に人形の手足で示されて指導しておられた。こんな僅かな事でも餘程熱意のある指導者でなければ考へ及ばない事だろう。水を熱愛し選手の養成に精魂をふき込む指導者のある處必ず立派な選手が産れると云う事實は昔ながらのプールがあり乍ら杉本先生の在職中と去られた跡の茨木中學水泳部の姿が何より雄辯に物語つていたのでなかろうか。

地方にあつて只黙々と選手の養成に努力される恵まれない指導者に最高の敬意を拂うと共に後進の指導に當る私共は先生の水泳に對する熱情を享け繼いでゆき度いものと念願している。

(16 頁より續く)

3	横田信明	(傳習館)	11:20.0
50 米	背泳		
1	黒佐年明	(八幡製鐵)	33.0
2	中島雅好	(傳習館)	34.0
3	待鳥惠	(柳河盲啞)	35.0
100 米	背泳		
1	黒佐年明	(八幡製鐵)	1:13.0
2	中島雅好	(傳習館)	1:14.0
3	廣末敏正	(田川高)	1:16.6
100 米	平泳		
1	佐谷隆昭	(福岡配炭)	1:22.2
2	葉室貞男	()	1:23.4
3	井上英治	(傳習館)	1:24.2
200 米	平泳		
1	佐谷隆昭	(福岡配炭)	3:02.2
2	井上英治	(傳習館)	3:03.0
3	田永仁	(修猷館)	3:09.8
200 米	リレー		
1	太田、黒、奥、野	(福岡北部)	1:53.8
2	坂本、上、黒、待	(南部)	1:55.2
3	井原、原、大、竹	(中部)	1:57.2
300 米	メドレーリレー		
1	黒、佐、水、貝	(北部)	3:45.0
2	奥、野、井、上	(南部)	3:57.4
3	井上(茂)、葉、室	(中部)	4:02.0

全日本高等學校水上競技大會を觀る

水連關西支部長 高石 勝 男

昭和 24 年度の全日本インターハイは 8 月 19 日より 22 日の四日間高松宮兩殿下の御臺臨の下に甲子園プールで開催された。

終戦以來年を経る毎に急激に内容が充實して來た本大會が本年度も當然昨年より参加者の多くなるだろう事は豫想していたが申込が出揃つて見るとプログラムの編成に四日間殆んどフルに使つても時間的に苦しいので其のやり繰りに大分悩まれた。北は北海道より南は九州の端まで全国の各地區から集まつた参加者の数は一千名近くこの様なインターハイの大會は水泳國である我が國ならでは見られない盛況である。本大會にさきがけて全國的に行われた地方豫選に参加した数は實に龐大な數になるだろう。我が國水泳競技の消長が一にインターハイの強弱にかゝつてゐるのを思い合せ非常に力強く感じた事だつた。

本大會の會期が終戦以來初めて國際競技への参加が許されて全國民の希望を双肩に勇躍出發して行つた古橋君以下六選手の参加してゐる全米選手權と時期を同じうしてゐたので刻々に六選手の大活躍振りが會場に報導されて張り切つてゐる若い選手をいやが上にも鼓舞激勵する大きな刺戟劑となつた。

只遺憾に思へたのは豫選の折に可なり目立つ程度に棄權者が多かつた點であつた。時節柄競技會に参加する爲には可なりの出費をとまらうので費用の關係で参加計畫を中止したのが大きな理由だろうと察するがこうしたインターハイの選手達にとつて唯一の全國的な大會にはたとえ勝つ見込の薄い場合でも先ず参加させてやる事が若い選手達に平素の苦しい練習に耐える克己心を持たせる力となりこれがやがて大成する途を開く上に何より良い方法であるのであつて、チームとしての参加が困難なら最少限度に参加する途を開いてやるべきだと思ふ。

レースの結果はどの種目も實に立派なものであつた。然しながら極く少數の選手を除いて全般に技術的にまだまだという感を深くした。高等學校の選手は元來が荒けづりのまゝ頑張る處が長所なのだが荒けづりの中にも矢張り泳法の本筋だけははずす事は許されない。本大會でも矢張り整つた泳法の者が優

秀な成績を得て居る事實が何よりよい證據である。今後インターハイのレベルが高くなればなる程この點はより大切な要素となつて來るだろう。良い選手となるには平素の苦しい練習によつて目茶な頑張りに耐えられる様になるのが第一の條件ではあるが只それだけでは充分ではないという事をよく認識しなければならぬ。次に目についたのは練習が不充分だと云う點であつた。平素の練習の程度は其の試験である競技會で眺めてゐるとよく判る。立派な體格と素質を持ちながら豫選で落ちた人が可なり多く見受けられた。この次の機會までに一層努力をしてほしいと思ふ。

自由型の種目の中で我々が大きな期待を持つたのは長距離であつた。さきに行われた全日本選手權大會の 1,500 米の決勝レースに渡米選手等の一流選手とさしてひけ目のない活躍振りを示した明善の田中伊東の川口兩君に今春來非常に好調を傳えられていた高知の北村君 盤田農の鷹野君それに新進が加わつて大接戦を演ずるだろう、そして恐らく 10 分そこそこの記録が出るだろうと期待してゐた。豫想たがわず終始いきのつまる様な立派なレースとなつて最後のラツプで川口君が田中君を抜いてタッチの差で優勝した。一位から四位まで 10 分 20 秒臺と云う立派な記録で泳ぎ抜き古橋君の後繼者は續々とつゞくと云う力強い感じを持つ事が出來た。

400 米も 800 米の顔ぶれのほかに神戸の中西君 中京の淺野君が加わつて之亦非常な熱戦であつた、このレースでも伊東の川口君が益々好調で完全に力の差で優勝を重ねた。只 800 米の記録に比べて 400 米で川口君だけが僅かに 5 分を割つただけであつたのは残念であつた、恐らく誰もが飛び出すのを恐れて自重し過ぎたからであつたとも思われるが要するに距離に即したペースをはつきり自覺してゐないから相手次第のペースで泳がねばならないのである。そう云う技術も平素の練習中に研究する必要がある。今一つはスプリントがない事も中距離に弱い缺點になつてゐると思ふ、長距離選手といへども大成する爲にはダツシユ力の養成を怠つてはならない。

短距離種目の 100 米もレースとしては審判員をま

ごつかせる程の大接戦ではあつたが悪く云えばどん栗の背くらべで取り上げて問題にするものは何もなかつた。豫選決勝を通じて1分4秒を僅かに割つた者が二名では他の種目と比較して餘りに劣り過ぎる。短距離は僅かにタッチの差で勝敗が決する種目なのでそれだけに選手がナーバスになるのも無理からぬ事ではあるが一人前の選手になる過程にあるインターハイの選手としては餘り勝敗にこだわらず短距離の選手らしい態度で思う存分に泳いで貰い度いと思う。

100米の低調さに比べて200米はよかつたと思う、決勝で六位までに入賞したものの中三名が100を泳ぎ三名が400を泳いでいる、そして400を兼ねている者が比較的的成功しているという結果になつている。インターハイの短距離選手が平素の練習中に長い距離をひくのを好んでやらないという評判を裏がきするものであると思う。この時代では短距離泳者も100より200に練習の基礎をおいてまず地力をかためてゆく心構えを持つのがよいのではなからうか、三位になつた杉原君など泳ぎとしては立派なもので特にそういう感じを受けた。

特種目は平泳も背泳も共に低調である我が水泳界全般の缺點を補うにはインターハイの新しい力に期待する以外に途がないのでその意味で特に本大會の中でも特種目の結果に関心が持たれていた。平泳は關學の手塚君が200, 400共に優勝をしてやゝまと

まつた泳法を示しただけで平泳の生命である脚力に特長のある強さの見られる選手のいなかつたのは淋しかつた、バタフライと云う強敵が出た今日ではオーソドックスでこれに對抗する爲には普通なみの脚では到底駄目で小池君や鶴田君が示した様な殆んど天才的な脚力の強さがなければ成功しないだろう。平泳でしかもオーソドックスの泳法を専門に泳ぐ者はこの點に意を用いて脚力の養成に非常な苦心と努力をしなければならぬと思う。

之に反して本年始めて種目として加へられたバタフライでは僅かの期間の練習で可なりまとまつた泳法と力を示しバタフライの將來に希望が持てる様になつたのは大きな収穫だつたと云える。たゞ200米を完泳する爲に手で浮きをとり乍ら積極性を缺いてこわごわ泳いでいるのが見られたがこれも練習の期間が短かくて自信を持てなかつたからであらうと善意に解釋して置こう。平泳と比較してレース前餘り大きな期待の持てなかつた背泳が少々好い結果の得られたのは終戦後でさへ年々低落している背泳の將來に多少の希望が持てうれしかつた。然しながら100米で1分11秒8という大會新記録で優勝した傳習館の中島君の活躍は本大會隨一の収穫であつてその事が背泳全體の力の評價を高めるのに役立つているのは否めない。決勝入賞者の大體の力は1分14秒乃至5秒の線であつてこれではまだほめる處までには少し距離がある。

全日本高等學校水上競技大會記録

男子之部

100米自由形

準決勝

A組

- 1 井原 孜 (伊 東) 1:04.8
- 2 大奥 兵一 (郡 山) 1:05.0
- 3 大熊 嶸 (長 良) 1:05.2

B組

- 1 杉原 滿弘 (尾道北) 1:04.0
- 2 樋口 清治 (關 學) 1:04.0
- 3 竹内 尙 (高知商) 1:05.0

C組

- 1 片瓜 幸雄 (盤田南) 1:04.0
- 2 谷 訥 (津 島) 1:05.2

- 3 高井 税 (小 牧) 1:06.0

D組

- 1 富田 正和 (佐伯一) 1:04.8
- 2 吉岡 清吉 (下田北) 1:04.8
- 3 栗田 順行 (静岡商) 1:05.6

決勝

- 1 樋口 清治 (關 學) 1:03.6
- 2 大奥 兵一 (郡 山) 1:04.0
- 3 井原 孜 (伊 東) 1:04.0
- 4 杉原 滿弘 (尾道北) 1:04.0
- 5 片瓜 幸雄 (盤田南) 1:04.4
- 6 高田 正和 (佐伯一) 1:04.1

200米自由形

準決勝

A組

- 1 樋口 清治 (關 學) 2:21.2

- 2 吉岡 清吉 (下田北) 2:27.0

- 3 栗田 順行 (静岡商) 2:28.4

B組

- 1 片瓜 幸雄 (盤田南) 2:23.4

- 2 谷川禎次郎 (佐伯一) 2:23.4

- 3 本宮 敏幸 (今治一) 2:24.6

O組

- 1 中西 理雄 (神 戸) 2:23.0

- 2 井原 孜 (伊 東) 2:24.6

- 3 神谷 俊司 (盤田農) 2:27.6

D組

- 1 杉原 滿弘 (尾道北) 2:22.6

- 2 淺野 滿 (中 京) 2:22.8

- 3 寶木 昭 (高知商) 2:28.2

決勝

- 1 谷川禎次郎 (佐伯一) 2:20.4
- 2 中西理雄 (神戸) 2:21.2
- 3 杉原満弘 (尾道北) 2:21.2
- 4 樋口清治 (關學) 2:22.0
- 5 淺野満 (中京) 2:22.0
- 6 片瓜幸雄 (盤田南) 2:24.4

400米自由形

準決勝

- A組
- 1 川口友平 (伊東) 5:05.4
 - 2 中西理雄 (神戸) 5:10.0
 - 3 平井研吾 (観音寺一) 5:15.0

- B組
- 1 田中寧夫 (明善) 5:03.6
 - 2 本宮敏幸 (今治一) 5:06.4
 - 3 横田宣明 (傳習館) 5:15.8

- C組
- 1 淺野満 (中京) 5:09.2
 - 2 谷川禎次郎 (佐伯一) 5:11.4
 - 3 堀田喜久男 (津島) 5:16.4

- D組
- 1 鷹野強 (盤田農) 5:09.0
 - 2 庄司政雄 (安房) 5:11.0
 - 3 五島繁富 (中京) 5:13.2

決勝

- 1 川口友平 (伊東) 4:58.6
- 2 田中寧夫 (明善) 5:01.6
- 3 淺野満 (中京) 5:02.0
- 4 鷹野強 (盤田農) 5:05.6
- 5 谷川禎次郎 (佐伯一) 5:07.2
- 6 中西理雄 (神戸) 5:07.4

800米自由形

準決勝

- A組
- 1 川口友平 (伊東) 10:38.8
 - 2 北岡靖造 (關學) 10:59.8
 - 3 五島繁富 (中京) 11:05.8

- B組
- 1 田中寧夫 (明善) 10:40.4
 - 2 庄司政雄 (安房) 10:49.4
 - 3 平井研吾 (観音寺一) 11:03.0

- C組
- 1 鷹野強 (盤田農) 10:29.4
 - 2 金澤壯夫 (伊東) 11:04.0

- 3 石丸宗介 (山口東) 11:08.4

D組

- 1 北村康雄 (高知商) 10:37.4
- 2 横田宣明 (傳習館) 11:01.4
- 3 山下享一 (盤田農) 11:06.8

決勝

- 1 川口友平 (伊東) 10:22.8
- 2 田中寧夫 (明善) 10:23.2
- 3 鷹野強 (盤田農) 10:26.6
- 4 北村康雄 (高知商) 10:26.8
- 5 庄司政雄 (安房) 10:52.0
- 6 横田宣明 (傳習館) 10:54.4

50米背泳

準決勝

- A組
- 1 中島雅好 (傳習館) 33.4
 - 2 廣末敏正 (田川) 34.0
 - 3 大奥兵一 (郡山) 35.2

- B組
- 1 倉橋範彦 (濱松西) 33.2
 - 2 宮部修 (伊都) 35.2
 - 3 近藤久仁正 (中京) 35.6

- C組
- 1 上田稔 (熊本) 33.8
 - 2 金森克行 (修道) 35.2
 - 3 清野満平 (石巻) 35.4

- D組
- 1 芦田拓郎 (津山) 34.0
 - 2 中村學 (松山一) 35.4
 - 3 伊岐見勝 (小牧) 35.1

決勝

- 1 中島雅好 (傳習館) 32.6
- 2 倉橋範彦 (濱松西) 32.8
- 3 上村稔 (佐伯一) 33.0
- 4 廣末敏正 (田川) 33.0
- 5 芦田拓郎 (津山) 33.2
- 6 金森克行 (修道) 34.4

100米背泳

準決勝

- A組
- 1 芦田拓郎 (津山高) 1:16.2
 - 2 中島雅好 (傳習館) 1:16.4
 - 3 近藤久仁正 (中京) 1:16.8

B組

- 1 宮部修 (伊都) 1:15.6
- 2 上村稔 (熊本) 1:15.6
- 3 金森克行 (修道) 1:16.8

C組

- 1 倉橋範彦 (濱松西) 1:14.2
- 2 野村輝夫 (佐伯一) 1:16.4
- 3 中村學 (松山一) 1:17.2

D組

- 1 和氣壽彦 (大州一) 1:14.0
- 2 伊岐見勝 (小牧) 1:17.2
- 3 清野満平 (石巻) 1:17.2

決勝

- 1 中島雅好 (傳習館) 1:11.8
- 2 倉橋範彦 (濱松西) 1:14.0
- 3 芦田拓郎 (津山) 1:14.0
- 4 和氣壽彦 (大州一) 1:14.0
- 5 上村稔 (熊本) 1:14.2
- 6 宮部修 (伊都) 1:15.0

200米平泳

準決勝

- A組
- 1 手塚政一 (關學) 2:54.4
 - 2 玉置弘 (伊都) 3:02.0
 - 3 吉開幸夫 (明善) 3:04.2

E組

- 1 高柳昌弘 (濱松西) 2:56.4
- 2 右手康雄 (關學) 2:57.4
- 3 寺崎博之 (三潑) 2:59.0

C組

- 1 尾崎好孝 (松山) 2:57.6
- 2 松下達郎 (盤田農) 2:58.4
- 3 野々下剛視 (佐伯一) 2:59.8

D組

- 1 久保田省三 (濱松北) 2:58.6
- 2 板井道生 (臼杵) 3:01.0
- 3 井上英治 (傳習館) 3:01.6

決勝

- 1 手塚政一 (關學) 2:53.6
- 2 寺崎博之 (三潑) 2:56.4
- 3 久保田省三 (濱松北) 2:56.8
- 4 高柳昌弘 (濱松西) 2:57.4
- 5 尾崎好孝 (松山) 2:58.8
- 6 松下達郎 (盤田農) 2:59.4

400米 平 泳

準 決 勝

A組

- 1 手塚 政一 (關 學) 6:06.8
- 2 高柳 昌弘 (濱松西) 6:14.2
- 3 久保田省三 (濱松北) 6:20.3

F組

- 1 尾崎 好孝 (松 山) 6:19.2
- 2 玉置 弘 (伊 都) 6:22.6
- 3 坂東純之輔 (神 戸) 6:29.4

C組

- 1 毛利 洋一 (仙臺二) 6:25.4
- 2 寺崎 博之 (三 瀨) 6:31.2
- 3 江口 親敏 (中 京) 6:33.2

D組

- 1 松下 達郎 (盤田農) 6:24.2
- 2 大橋 秀之 (津 島) 6:27.2
- 3 右手 康雄 (關 學) 6:27.4

決 勝

A組

- 1 手塚 政一 (關 學) 6:04.0
- 2 高柳 昌弘 (濱松西) 6:14.4
- 3 尾崎 好孝 (松 山) 6:14.8
- 4 久保田省三 (濱松北) 6:17.6
- 5 玉置 弘 (伊 都) 6:20.6
- 6 毛利 洋一 (仙臺二) 6:21.0

100米バタフライ

準 決 勝

A組

- 1 秋山 康昌 (觀音寺一) 1:19.2
- 2 大澤 晋 (吳 廣) 1:23.6
- 3 宮本 英樹 (田 邊) 1:23.8
- 4 吉岡 司辰 (佐伯一) 1:24.4

B組

- 1 熊本 鎮滉 (鴨 沂) 1:18.4
- 2 駒村 秀雄 (灘) 1:19.5
- 3 田村 福義 (高知商) 1:22.2
- 4 藤井 義弘 (門司東) 1:24.2

決 勝

- 1 熊本 鎮滉 (鴨 沂) 1:19.0
- 2 駒村 秀雄 (灘) 1:19.4
- 3 秋山 康昌 (觀音寺一) 1:19.8
- 4 田村 福義 (高知商) 1:23.2
- 5 大澤 晋 (吳 廣) 1:24.2
- 6 藤井 義弘 (門司東) 1:25.6

200米バタフライ

準 決 勝

A組

- 1 熊本 鎮滉 (鴨 沂) 3:05.0
- 2 縣 甫 (沼津東) 3:10.6
- 3 田村 福義 (高知商) 3:11.0
- 4 宮崎 魚彦 (盤田農) 3:14.2

B組

- 1 駒村 秀雄 (灘) 3:06.2
- 2 秋山 康昌 (觀音寺一) 3:08.4
- 3 小山富士雄 (觀音寺一) 3:12.8
- 4 北澤 軍治 (東都一) 3:15.0

決 勝

- 1 熊本 鎮滉 (鴨 沂) 2:56.4
- 2 駒村 秀雄 (灘) 2:58.8
- 3 秋山 康昌 (觀音寺一) 3:07.0
- 4 田村 福義 (高知商) 3:10.0
- 5 縣 甫 (沼津東) 3:11.2
- 6 小山富士雄 (觀音寺一) 3:13.4

200米リレー

準 決 勝

A組

- 1 谷川、野村 (佐伯一) 1:58.2
- 2 肥田、石丸 (山口東) 1:59.6
- 3 中根、秋村 (關 學) 2:01.0
- 4 渡邊、北岡 (關 學) 2:01.0
- 5 豊岡、樋口 (關 學) 2:01.0
- 6 川瀬、山本 (瀬戸田) 2:01.6

B組

- 1 糸井、芳仲 (郡 山) 1:58.4
- 2 谷、大奥 (小 牧) 1:58.4
- 3 荒川、大野 (高知商) 1:59.0
- 4 河村、高井 (三 瀨) 1:58.8
- 5 室木、小松 (高知商) 1:58.8
- 6 田村、竹内 (三 瀨) 1:58.8

決 勝

- 1 谷川、瀧 (佐伯一) 1:57.2
- 2 富田、肥川 (小 牧) 1:57.4
- 3 荒川、大野 (郡 山) 1:57.8
- 4 河村、高井 (高知商) 1:58.2
- 5 糸井、芳仲 (山口東) 1:59.6
- 6 谷、大奥 (三 瀨) 1:59.8

800米リレー

準 決 勝

A組

- 1 上堀、神谷 (盤田農) 9:55.0
- 2 山下、鷹野

- 2 寶木、竹内 (高知商) 10:07.8
- 3 高橋、北村 (觀音寺一) 10:09.0
- 4 平井、岡田 (郡 山) 10:15.4
- 5 高瀬、奥田
- 6 谷、糸井 (大奥)
- 7 芳仲、大奥

B組

- 1 肥川、瀧 (佐伯一) 9:59.8
- 2 富田、川口 (伊 東) 10:00.0
- 3 井原、山本 (關 學) 10:03.4
- 4 金澤、川瀬 (中 京) 10:04.6
- 5 豊岡、樋口
- 6 北岡、近藤
- 7 五島、浅野
- 8 服部、

決 勝

- 1 上堀、神谷 (盤田農) 9:46.6
- 2 山下、鷹野 (佐伯一) 9:49.4
- 3 肥川、瀧 (關 學) 9:54.6
- 4 富田、川瀬 (伊 東) 9:56.8
- 5 豊岡、樋口 (觀音寺一) 10:02.8
- 6 北岡、山本 (高知商) 10:06.2
- 7 井原、岡田
- 8 金澤、奥田
- 9 平井、竹内
- 10 白井、北村
- 11 寶木、竹内
- 12 高橋、北村

得 點

- 1 關 學 28
- 2 佐伯一 22
- 3 伊 東 21
- 4 濱松西 18
- 5 盤田農 15
- 6 傳習館 15

女子之部

50米自由形

準 決 勝

A組

- 1 高橋美恵子 (東都四) 35.2
- 2 青木 暉子 (朱 雀) 36.2
- 3 外山眞基子 (堀 川) 37.8
- 4 鈴木 慶子 (伊 東) 38.0

B組

- 1 山下 貞子 (五 條) 34.6
- 2 太田 教子 (東都四) 35.6
- 3 石田 道子 (朱 雀) 37.6
- 4 蜂屋 信子 (今 川) 38.0

決 勝

- 1 山下 貞子 (五 條) 34.6
- 2 太田 教子 (東都四) 35.0
- 3 高橋美恵子 (東都四) 35.8
- 4 青木 暉子 (朱 雀) 35.8
- 5 石田 道子 (朱 雀) 36.8
- 6 外村眞基子 (堀 川) 37.2

100米自由形

準決勝

A組

- 1 新子 富子 (五 條) 1:18.2
- 2 青木 暉子 (朱 雀) 1:20.4
- 3 高橋美恵子 (東 都 四) 1:22.8

B組

- 1 山下 貞子 (五 條) 1:19.4
- 2 太田 教子 (東 都 四) 1:20.2
- 3 山本加志子 (兒 島) 1:22.6
- 4 蜂屋 信子 (今 川) 1:25.8

決勝

- 1 新子 富子 (五 條) 1:16.8
- 2 山下 貞子 (五 條) 1:18.2
- 3 太田 教子 (東 都 四) 1:20.2
- 4 高橋美恵子 (東 都 四) 1:20.2
- 5 青木 暉子 (朱 雀) 1:20.8
- 6 山本加志子 (兒 島) 1:23.2

200米自由形

準決勝

A組

- 1 森 あき子 (伊 東) 2:52.2
- 2 江濱 敦子 (筑 紫) 2:58.8
- 3 塚本ちか子 (東 都 四) 2:59.6
- 4 井出 弘子 (今 治 二) 3:02.2

B組

- 1 新子 富子 (五 條) 2:56.2
- 2 安部佐和子 (伊 東) 2:58.6
- 3 田邊 和子 (東 都 四) 3:02.6
- 4 藤原 明美 (平 塚) 3:07.4

決勝

- 1 新子 富子 (五 條) 2:48.2
- 2 森 あき子 (伊 東) 2:48.4
- 3 安部佐和子 (伊 東) 2:58.4
- 4 江濱 敦子 (筑 紫) 2:58.8
- 5 塚本ちか子 (東 都 四) 2:59.6
- 6 田邊 和子 (東 都 四) 3:00.6

400米自由形

決勝

- 1 森 あき子 (伊 東) 5:54.4
- 2 安部佐和子 (伊 東) 6:13.4
- 3 塚本ちか子 (東 都 四) 6:16.4
- 4 江濱 敦子 (筑 紫) 6:17.0
- 5 田邊 和子 (東 都 四) 6:30.0

6 藤原 明美 (平 塚) 6:38.4

50米背泳

準決勝

A組

- 1 可兒 令子 (松 蔭) 39.8
- 2 小椋とし子 (成 徳) 42.4
- 3 加納 照子 (鴨 沂) 43.2
- 4 山本加志子 (兒 島) 43.8

B組

- 1 小椋とみ子 (成 徳) 39.4
- 2 片岡 澄子 (五 條) 42.4
- 3 河村遊津美 (鴨 沂) 43.0
- 4 稻葉チヅエ (白 杵) 43.2

決勝

- 1 小椋とみ子 (成 徳) 39.0
- 2 可兒 令子 (松 蔭) 39.8
- 3 小椋とし子 (成 徳) 42.0
- 4 片岡 澄子 (五 條) 42.8
- 5 加納 照子 (鴨 沂) 43.0
- 6 河村遊津美 (鴨 沂) 44.0

100米背泳

準決勝

A組

- 1 小椋とみ子 (成 徳) 1:29.6
- 2 加納 照子 (鴨 沂) 1:33.6
- 3 稻葉チヅエ (白 杵) 1:35.0
- 4 大塚 彰子 (福岡中央) 1:37.4

B組

- 1 可兒 令子 (松 蔭) 1:30.4
- 2 小椋とし子 (成 徳) 1:32.2
- 3 片岡 澄子 (五 條) 1:33.6
- 4 河村遊津美 (鴨 沂) 1:35.4

決勝

- 1 小椋とみ子 (成 徳) 1:27.6
- 2 可兒 令子 (松 蔭) 1:30.2
- 3 小椋とし子 (成 徳) 1:32.2
- 4 加納 照子 (鴨 沂) 1:32.4
- 5 片岡 澄子 (五 條) 1:34.0
- 6 河村遊津美 (鴨 沂) 1:34.4

100米平泳

準決勝

A組

- 1 大石 康子 (山 城) 1:36.0
- 2 大野 敦子 (東 都 四) 1:37.0

3 立花 文子 (成 城) 1:37.0

4 芳川 順子 (松 蔭) 1:39.4

B組

- 1 菅 操子 (湊 川) 1:35.8
- 2 壘谷 良子 (武庫川) 1:37.2
- 3 高野 博子 (伏 見) 1:37.8
- 4 秋田チヅ子 (福岡中央) 1:40.8

決勝

- 1 大石 康子 (山 城) 1:34.2
- 2 大野 敦子 (東 都 四) 1:35.4
- 3 菅 操子 (湊 川) 1:35.8
- 4 高野 博子 (伏 見) 1:36.8
- 5 立花 文子 (成 城) 1:37.8
- 6 芳川 順子 (松 蔭) 1:40.0

200米平泳

準決勝

A組

- 1 壘谷 良子 (武庫川) 3:23.0
- 2 芳川 順子 (松 蔭) 3:25.2
- 3 菅 操子 (湊 川) 3:30.4
- 4 秋田チヅ子 (福岡中央) 3:32.4

B組

- 1 大石 康子 (山 城) 3:24.0
- 2 大野 敦子 (東 都 四) 3:24.4
- 3 高野 博子 (伏 見) 3:28.4
- 4 立花 文子 (成 城) 3:29.4

決勝

- 1 壘谷 良子 (武庫川) 3:19.4
- 2 大野 敦子 (東 都 四) 3:20.0
- 3 大石 康子 (山 城) 3:21.8
- 4 高野 博子 (伏 見) 3:26.0
- 5 芳川 順子 (松 蔭) 3:26.4
- 6 菅 操子 (湊 川) 3:28.2

200米リレー

豫選

A組

- 1 石田、吉川、浅村、青木 (朱 雀) 2:29.8
- 2 森、石井、鈴木、安部 (伊 東) 2:32.0
- 3 太田、内藤、前原、江濱 (筑 紫) 3:41.6

B組

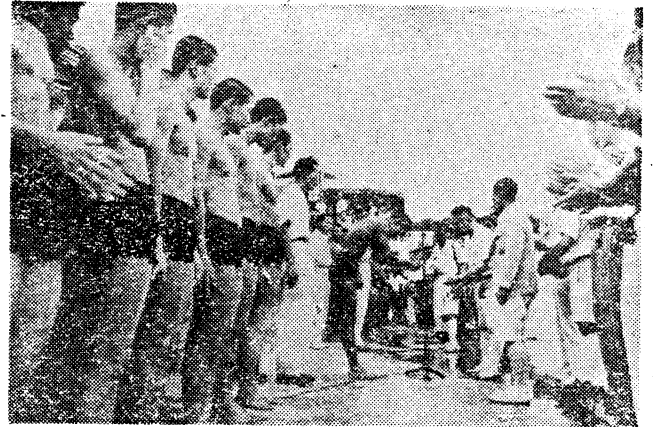
- 1 太田、高橋、塚本、田邊 (東 都 四) 2:28.2
- 2 遠山、新名、關、合田 (丸 龜 一) 2:41.4
- 3 大塚、稻井、白石、石田 (福岡中央) 2:42.0

(以下28頁へ続く)

日本男子高等學校東西對抗水上競技大會

志 村 義 久

高校東西對抗水泳大會開催の主旨は 國際參加の場合に於ける 日本水泳界の主動力たる高校生徒の技術向上にあるのは申すまでもなく、一月の代議員會の席上愛知縣水泳連盟から開催の申出があり、満場一致で名古屋振浦プールに開催と決定を見たのである。大會は八月二十八日で八月十九日から三日間甲子園プールで行はれた 全國高等學校水泳選手權大會の結果選ばれた東西各十七名の選手を以て二十二日から名古屋振浦プールで合宿練習を實施した、西部長距離の中堅北村君が病氣の爲參加出來得なかつたのは一抹の淋しさを感じさせた。



優勝杯を授與される西軍

(東部) 監督 志村 義久
 コーチ 宮本 茂
 〃 杉田 芳郎

選手 主將 鷹野 強
 庄司 政雄 川口 友平
 井原 攷 片瓜 幸雄
 吉岡 清吉 淺野 滿
 伊岐見 勝 倉橋 範彦
 近藤 久仁正 久保 田省三
 尾崎 好孝 松下 達郎
 高柳 晃弘 北澤 軍治
 縣 甫 宮崎 魚彦

(西部) 監督 田口 正治
 コーチ 佐伯 勝郎

選手 主將 樋口 清治
 大奥 兵一 杉原 滿弘
 谷川 禎次郎 田中 寧夫
 中西 理雄 横田 宜明
 中島 雅好 芦田 拓郎
 和氣 素彦 平塚 政一
 玉置 弘 熊本 鎮滉
 駒村 秀雄 秋山 康昌

(不參者 北村、寺崎)

合宿所は 主管愛知縣水泳連盟の多大の配慮により、プールから一丁程はなれた千種區公民館全館を借り受け、合宿所としては申し分はなかつたが合宿日課が示すように練習が公開中の振浦プール使用の爲十分に出來なかつた事である。

合宿日課

7 時 起床、體操、洗面
 7 時 30 分 朝食
 9 時—11 時 練習
 12 時 30 分 晝食
 15 時 間食
 17 時—19 時 練習
 19 時 30 分 夕食
 20 時 消燈

以上

合宿初日から大會當日迄 中五日間尙且各選手共地方豫選、甲子園大會と相當に疲勞していた模様でもあつたので水になじむ程度で本格的な練習は出來なかつた。又昨年冬の伊東や本年春の甲子園の合宿にも參加した選手が相當に多かつた關係等もあり特別の人をのぞいては技術的には餘りふれず専ら精神的訓練に重點を置き合宿練習の指導に當つた。

- 一、日本水泳の主動力たる自覺を持つ事。
- 二、規律の嚴守、日課勵行
- 三、練習觀念の是正
- 四、禁煙

終戦後民主々義の普及の半面というか 青少年層に惡影響がみられる。即ち自覺のない自由、義務のうらづけのない權利の主張である。スポーツのもつ今日の地位はこれら青少年の精神教育にもあるのは勿論だ。高校選手諸君のみならず大學選手に至る迄常に批判の對照とせられている練習觀念の是正であ

る。たとえば練習中 100 米自由形で 1 分 1 秒程度であれば 59 秒臺では試合には泳げるといふ考へ方である。ロサンゼルス、ベルリンで活躍せられた日本水泳界の先輩諸兄の練習態度の如く、「練習は試合の如く、試合は練習の如く」泳げと敢て聲を大にしたのである、本大會に於ける長距離の川口君短距離の樋口君等も一層の自覺を望むものである。

合宿初日に禁煙については固い約束をしたにも不拘一部の者に喫煙した事實があつたのは誠に遺憾であり、今後の合宿選手の選定規律の嚴守には斷固たる

態度を取る必要があると思ふ。今回の合宿状態を總評すれば比較的優秀な選手には自覺があり水泳界の爲に喜ばしい限りであつた。

大會成績としては特筆すべきものもなく且又對抗競技としても東西の實力が餘りにも差があり、たゞ長距離川口君田中君背泳中島君の記録的興味に集中せられていたが田中中島兩君は病氣の爲残念ながら好記録が生れなかつた。

終りに臨み愛知水泳連盟關係者御一同の好意に對し謝意を表したい。

第 1 回日本男子高等學校東西對抗水上競技大會

8 月 28 日 振甫プール (50 米) 公認 氣温 29° 水温 27°5

100 米 自由形

1	樋口清治 (西)	1:02.0
2	片瓜幸雄 (東)	1:03.8
3	井原孜 (東)	1:04.0
4	吉岡清吉 (東)	1:04.2
5	大奥兵一 (西)	1:04.2
6	杉原滿弘 (西)	

50 米 背 泳

1	倉橋範彦 (東)	33.2
2	芦田拓郎 (西)	33.4
3	中島雅好 (西)	34.0
4	和氣壽彦 (西)	35.2
5	伊岐見勝 (東)	35.4
6	近藤久仁正 (東)	

100 米バタフライ

1	熊本鎮滉 (西)	1:17.4
2	秋山康昌 (西)	1:18.6
3	駒村秀雄 (西)	1:19.0
4	北澤軍次 (東)	
5	縣甫 (東)	
6	宮崎魚彦 (東)	

200 米 自由形

1	谷川禎次郎 (西)	2:20.0
2	樋口清治 (西)	2:20.6
3	杉原滿弘 (西)	2:20.8
4	井原孜 (東)	2:21.0
5	鷹野強 (東)	2:22.0
6	片瓜幸雄 (東)	

100 米 背 泳

1	芦田拓郎 (西)	1:13.0
2	中島雅好 (西)	1:13.2
3	倉橋範彦 (東)	1:14.0
4	和氣壽彦 (西)	1:15.4
5	伊岐見勝 (東)	1:16.0
6	近藤久仁正 (東)	

200 米バタフライ

1	熊本鎮滉 (西)	2:54.0
2	駒村秀雄 (西)	2:58.8
3	秋山康昌 (西)	3:08.0
4	縣甫 (東)	3:09.6
5	北澤軍次 (東)	3:19.6
6	宮崎魚彦 (東)	

400 米 自由形

1	川口友平 (東)	4:56.0
2	鷹野強 (東)	5:00.8
3	淺野滿 (東)	5:03.0
4	谷川禎次郎 (西)	5:04.4
5	横田宜明 (西)	5:09.0
6	中西理雄 (西)	

200 米 平 泳

1	手塚政一 (西)	2:53.4
2	高柳昌弘 (東)	2:53.8
3	久保田省三 (東)	2:56.0
4	玉置弘 (西)	2:59.6
5	松下達郎 (東)	3:00.0

300 米 リ レ ー

1	井原、倉橋、片瓜、吉岡 (東)	1:53.0
2	樋口、谷川、杉原、大奥 (西)	1:54.0

800 米 リ レ ー

1	谷川、樋口、中西、杉原 (西)	9:26.4
2	鷹野、井原、淺野、川原口 (東)	9:31.8

1500 米 自由形

1	川口友平 (東)	19:47.0
2	庄司政雄 (東)	20:11.2
3	中西理雄 (西)	20:11.6
4	淺野滿 (東)	
5	田中寧夫 (西)	
6	横田宜明 (西)	

400 米 平 泳

1	手塚政一 (西)	6:06.4
2	高柳昌弘 (東)	6:07.6
3	尾崎好孝 (東)	6:11.4
4	玉置弘 (西)	6:12.2
5	久保田省三 (東)	

得 點

1	西 軍	122
2	東 軍	104

第1回日本女子高等学校選抜選手東西対抗水上競技大會

8月25日 野毛山プール (50米) 公認

50米自由形

1	山下 貞子 (西、五條)	33.0
2	太田 教子 (東、都四)	35.1
3	高橋美恵子 (東、都四)	35.4
4	青木 暉子 (西、朱雀)	35.6
5	田邊 和子 (東、都四)	36.2
6	石田 道子 (西、朱雀)	36.8

400米自由形

1	森 あき子 (東、伊東)	5:53.4
2	新子 富子 (西、五條)	6:09.8
3	安部左和子 (東、伊東)	6:16.0
4	塚本千賀子 (東、都四)	6:13.2
5	江濱 敦子 (西、筑紫)	6:27.4
6	井出 弘子 (西、今治二)	6:38.6

100米平泳

1	疊谷 良子 (西、武庫川)	1:33.2
2	大石 康子 (西、山城)	1:33.4
3	大野 敦子 (東、都四)	1:36.6
4	立花 文子 (東、成城)	1:37.2
5	高野 博子 (西、伏見)	1:38.2
6	木梨 あさ (東、伊東)	1:39.8

100米自由形

1	山下 貞子 (西、五條)	1:19.0
2	青木 暉子 (西、朱雀)	1:20.8
3	太田 教子 (東、都四)	1:20.8
4	高橋美恵子 (東、都四)	1:21.6
5	田邊 和子 (東、都四)	1:23.4
6	太田 紀子 (西、筑紫)	1:25.0

50米背泳

1	小椋とみ子 (東、成徳)	39.2
2	可兒 令子 (西、松蔭)	41.4
3	小椋とし子 (東、成徳)	41.6
4	片岡 澄子 (西、五條)	41.6
5	加納 照子 (西、鴨沂)	42.2
6	太田 聶子 (東、伊東)	45.0

200米平泳

1	疊谷 良子 (西、武庫川)	3:19.6
2	大石 康子 (西、山城)	3:23.6
3	大野 敦子 (東、都四)	3:26.0
4	高野 博子 (西、伏見)	3:28.2
5	立花 文子 (東、成城)	3:31.6
6	木梨 あさ (東、伊東)	3:32.2

200米自由形

1	森 あき子 (東、伊東)	2:47.0
2	新子 富子 (西、五條)	2:52.4
3	安部左和子 (東、伊東)	2:58.2
4	江濱 敦子 (西、筑紫)	3:02.0
5	塚本千賀子 (東、都四)	3:02.2
6	井出 弘子 (西、今治二)	3:10.2

100米背泳

1	小椋とみ子 (東、成徳)	1:29.6
2	片岡 澄子 (西、五條)	1:31.2
3	小椋とし子 (東、成徳)	1:31.6
4	可兒 令子 (西、松蔭)	1:33.4
5	加納 照子 (西、鴨沂)	1:33.6
6	太田 聶子 (東、伊東)	1:42.0

200米リレー

1	山下、青木、石田、新子 (西)	2:21.0
2	太田、高橋、田邊、森 (東)	2:23.0

300米メドレー・リレー

1	可兒、大石、山下 (西)	4:18.6
2	小椋、大野、太田 (東)	4:21.4

得点

西 104点 東 90点

(25頁より続く)

女子高校大會記録

C組

1	山下、片岡、芳田、新子 (五條)	2:27.2
2	山本、林、堀、大石 (山城)	2:44.2

決勝

1	山下、片岡、芳田、新子 (五條)	2:24.6
2	太田、高橋、塚本、田邊 (東都四)	2:26.8
3	石田、浅村、吉川、青木 (朱雀)	2:30.4
4	鈴木、石井、安部、森 (伊東)	2:31.0
5	遠山、新名、關、合田 (丸龜一)	2:37.8
6	大石、林、堀、山本 (山城)	2:42.8

300米メドレー・リレー

豫選

A組

1	内山、大野、太田 (東都四)	4:44.4
2	前原、石川、江濱 (筑紫)	4:47.4
3	河村、本谷、塚原 (鴨沂)	4:51.0

B組

1	太田、井原、森 (伊東)	4:44.0
2	可兒、芳川、藤安 (松蔭)	4:46.2
3	徳永、西塚、青木 (朱雀)	4:47.2

C組

1	小椋、三枝、小椋 (成徳)	4:45.6
2	岡村、大石、山本 (山城)	4:46.6
3	大塚、秋田、稻井 (福岡中央)	4:52.6

決勝

1	塚本、大野、太田 (東都四)	4:40.4
2	徳永、西崎、青木 (朱雀)	4:43.0
3	太田、井原、森 (伊東)	4:43.6
4	小椋、三枝、小椋 (成徳)	4:43.8
5	可兒、芳川、藤安 (松蔭)	4:46.8
6	前原、石井、江濱 (筑紫)	4:49.4

得点

1	東都四	47
2	五條	33
3	伊東	38
4	成徳	25
5	朱雀	16
6	松蔭	15

質 疑 應 答

質 問 者

和歌山水連桐蔭高水 佐 野 潔

希 望 事 項

來年度は全日本高校を東西に分割して行い、そのピックアップで東西對抗をする戦前の東(西)部中等學校のやり方にして貰えませんか。理由、費用難、宿舍難。

解答

専務理事 藤 田 明

來年度全日本高校大會は、今のところ大體本年度のやり方を踏襲して舉行することに内定致して居ります。但し大會の運営を圓滑にするため、各加盟團體の優秀二校、及び前年度大會第六位迄の學校、即ちシード校を出した加盟團體から更に其の數だけ参加させることが出来る現行制度を多少變更して、各加盟團體からは優秀一校とし、その代りシード校を十校に増す案で進んで居ます。尙各種目の第三位迄に入つた競技者(含りレー)は、その種目に限り本大會に出場出来る點は變更ありません。

東西分割案も充分研討して居りますが、現状では三重、愛知、岐阜、福井を東部に入れても豫想参加校數(これは其儘高校の水泳分野を示すと見ることも出来る)は東部に比し、西部が非常に多く、此の現象は特に女子に於て甚しい比率を示し、東西對抗制の持つ意義を半減するように考えられます。又東西對抗戦は必然的に東西優勝校戦を伴うわけですがこれは従來の例から見て、優勝校に屬する一部選手を極端に酷使する結果を生じ、必ずしも最善の方式ではないと思います。

費用難の點は我々も常々御同情申し上げて居るのですが、現状では加盟團體の代表校に費用を援助することは不可能なので、中央大會への参加制限を取って續けて居る次第です。この事は本大會が昨年學生部會の手を離れて、水連の直轄事業となつた時も種々討議されたのですが、加盟團體の手で地方大會を盛んに行つていくことが取りも直さず高校水泳の基盤を強化することになり、同時に加盟團體自體をも充實させるものであるとの信念に發し、地方選手權、中學校大會の向上發展と共に、我々が加盟團

體に期待する最大のものであることを併せて御高承願いたいと存じます。

宿舍の點に就ては御懸念を解消するやう、層一層開催地先と連絡をとることに致します。

質 疑 事 項 (1)

バタフライ泳法で一〇〇米と二〇〇米とで手足のコンビネーションが變りますが、バタ泳法の水中及び陸上での練習法、心得を詳細に解説して欲しい。

解答

水連コーチ 小 池 禮 三

バタフライ泳法でも一〇〇米と二〇〇米とで手足のコンビネーションは變ることはない、これは恐らくどの種目にも云える事と思ひますが短いと長いのではピッチの變ることはあつてもコンビネーションの變ることはない。

バタ泳法の練習方法としては水中に於ても陸上に於ても特別珍しい練習方法というものは現在用いられていない、何んと云つても重要な練習方法は自分のバタ泳法で長い距離を泳いで耐久力をつけること、短いのでスピードをつけてあとは仕上げでペースを把握することが大切だと思います。特に現在の日本のバタフライ泳者にはペースの把握ということが缺けている様ですから特に此の點に重點を置く様心掛ける必要があると思ひます。一時アメリカでは腕を強くする爲めに足に重いズック靴をはいて腕の練習をした様な話をききましたが先般アメリカに行つた連中の話に依ると平常クロールの練習を相當することはあつてもクツをはいて泳ぐ様なことはないとのことでした。現在の日本の段階としては何んと云つてもバタフライ泳法を完全にマスターすることに専念することが急務で完全に泳法が出来てからクロール等を併用して腕を強くする等という方法を初めて考えられると思ひます。

質 疑 事 項 (2)

コーチは泳者の長所に目をつけて延し餘り缺點を指摘せぬ方がよいと考えるが如何、悪いところを直すのが第一義か。(解答は39頁に續く)

FINA の總會決定事項

FINA の第 40 回總會と理事會は 1948 年ロンドンのオリンピック大會の前後に開かれ一般事項および水泳飛込水球その他について一部規則の變更が決定された。

以下主なことがらを列記する。

ルールの變更は連盟發行のルールブックの條項番號を附記した。

理事會 (7 月 28 日)

シリヤとアルバニヤが加盟を申入れていたが手続きが FINA の規定に従っているので一九四八年度の會費をおさめる條件で加盟を承認した。

バタヴィアのインドネシアスポーツ連盟からの加盟申入れは FINA から要求した、その詳細やルール規定を提出しないのでとり上げないことになった。

日本水連が加盟復歸を求める手紙はリッター氏から提出され討議の結果、日本とドイツに關しては國際オリンピック委員會の方針に従うことに決定、また加盟が取消されている國からの記録の申請は非加盟の状態にある間は考慮しないことを決定した。

リッター名譽書記長から 1952 年ヘルシンキで開かれる第 15 回オリンピック組織委員會會長フレンケル氏の手紙を紹介、同書面には競泳水球飛込競技はオリンピックの最終八日間に行つてもらいたいとの FINA の要求は充分考慮すると述べられてあつた。

FINA 總會 (7 月 28 日、8 月 8 日) 加盟國の 51 代表 (8 日は 57) と 7 理事が出席。

リッター氏が過去 12 年の FINA の活動を報告加盟は 53 國になつたとのべた。なお第 40 回總會にあたるこの會で FINA の初期の名譽書記長であり會長であつたイギリスの名譽終身會長 G・W・ハーン氏に満場一致の上感謝の電報を打電した。

ボリヴィアとジャマイカ及びヴェネズエラは 1947 年以來會費未納のため資格を停止された。

次の理事會の提案が討議の末可決された。

◇加盟國の代表はその代表する國の市民であるべきこと。

◇FINA の特別會合を開いてほしい場合は從來三ヶ國が名譽書記長に對しその旨と理由を申出ることになつてしたが三ヶ國が十ヶ國に訂正された。

◇アメリカの提案で理事の數をそれぞれ異つた國から選ばれた十名に増員することを決定、理事は會長一、副會長三、名譽書記長一名譽會計一その他四となる。

◇アメリカの提案で國際水球委員會の會員は異つた國から少く選ぶことを決定。

◇理事會の提案で審判長は全競技に最高の権限をもたせることを決定そのため規則第一條を次のように訂正することになつた。

「出發合圖員一名、審判長一名」とあるを「審判長一名、出發合圖員一名」とする。

(A) 項を次の如く改む。

「審判長は各競技者を統轄し計時員及び審判員が適當の位置につきたるを認めたる後出發合圖員をして競泳を開始せしむ」

◇フランスの提案で第五條競泳池の第一節と第二節を次の如く變更した。

「競泳池の兩端壁は鉛直平面にして水面下少くとも 1 米 50 の間は突出部なく競技者が折り返す際手又は足にて體を押し出し得る如く堅固なるべし」

◇アメリカの提案で世界記録表から背泳と平泳の長い距離を除こうとの案は特別委員會に付託、この委員會が距離全體にわたつて研究することになつた。

委員 チェコ ハウプトマン氏、オランダ ジャンド・フリース氏、アメリカ リッター氏。

◇個人メドレーとメドレーリレーに關しフリー・スタイルというのは背泳または平泳以外の泳ぎを指すものであることが承認された。

◇FINA への記録申請は 6 月 1 日までであつたのを 6 月 1 日または 12 月 1 日までとした、また記録が認められた場合、デイプロマとメダルが選手に送られていたが今後メダルはなくなる。

◇飛込のルールが一部改められた (これは本誌には別項として扱つた)

◇オリンピックの組合わせには次のことが加味されることとなつた。

「競泳豫選は公式申込に記入された選手のタイムをもとに組合わせをきめる。

準決勝さらに決勝への出場はそのまへの着順とタイムできめる、記録がタイのときは次の順できめる

(1) レースの審判員の判定

- (2) 三名の公式計時員の合計タイム
- (3) 準決勝あるいは決勝への出場のチャンスはその選手のヒートだけのこと。
- (4) 以上の手段でタイが解決しない場合はその選手は委員会の決定する時期に選定のレースを別に行う。

◇デンマーク、フィンランド、ノールウェー、スウェーデンの合同提案で選手が競技に出場し、そのため仕事からの収入を失う場合それを保障しようという案は一票の差で否決された。

◇同四國の合同提案でアマチュアを否認された選手がもし軽減する事情があればアマチュアとしての復帰を認めることが小委員会で採定總會でも認められた。

◇バタフライについては復刊一號に既報の通りきまつたが(これは49年9月の理事会でまた舊に復した。)

◇世界記録の距離を研討した小委員会の成果は委員長チエコのハウプトマン氏から説明しばらく議論があつて1949年1月から次のように實施されることになつた。

	ヤード	米
自由形	100*	100**
	220*	200*
	440*	400*
	500*	500*
	880†	900*
	1760†	1500†
平泳	100*	100**
	200*	200*
背泳	100*	100**
	150*	200*
リレー	400*	400**
	(男子のみ) 800*	800**
メドレーリレー 背泳—平泳—自由形	300*	700**

* 印の水路は次のプールであること

25 ヤード、25 米、33¹/₃ ヤード、33¹/₃ 米

50 ヤード 50 米、及びそれ以上

**印の水路は次のプールであること

25 米、33¹/₃ 米、50 米、及びそれ以上

十印は 50 ヤードより短いプールではいけない
◇デンマーク、フィンランド、ノールウェー、スウェーデンの提案で水着の項が次の如く簡単になることに決定した。

規則第十六條水泳着男子のBをやめAの規定のみとする、また第四節の且つ黒みがかりたる色たるべしを削除する。

◇リッター氏の動議で水泳競技の隆盛にかんがみ出来る限り加盟各國にオリンピックと同じ大きさの室内プールを建設することを提唱、この趣旨を FINA のハンドブックに記載することになつた。

◇リッター氏の案で加盟各國を FINA 支援の能力に應じ次の ABC 三つのグループに分け加盟金年額 A は 10 ポンド B は 8 ポンド C は 6 ポンドと決定された。

(A) アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、ベルムダ、ブラジル、デンマーク、フランス、イギリス、オランダ、ハンガリー、インド、イタリア、メキシコ、パキスタン、フィリピン、スペイン、スウェーデン、アメリカ、ソ連、ユーゴ

(B) カナダ、キューバ、チエコ、エクアドル、エジプト、ニュージーランド、パレスチナ、ペルー、ポーランド、南阿、スイス、ウルガイ

(C) アルバニア、オーストリア、ブルガリア、ビルマ、チリ、中國、コロンビア、フィンランド、ギリシャ、アイスランド、イラン、朝鮮、レバノン、ルクセンブルグ、マルタ、ノールウェー、ポルトガル、ルーマニア、シリア、トルコ

◇名譽書記を通じて理事会はフィンランドのオリンピック委員会に次のことを要求することになつた。

「1952年ヘルシンキのオリンピックでは競泳飛込水球競技はオリンピック開始の第二週に行ふこと。またオリンピックプログラムに男女の300米メドレーを加えること。

このレースのためには選手の増加を別に必要としない。

◎飛込は FINA の改正から現行規則を次のように改めることになつた

◇飛込競技規則第一章通則に次の二節を加う

「競技者数が十名以下の競技會では第一回の飛込で第一番に飛んだ者は第二回目の飛込では最後に飛び第二回目に最初に飛込んだ競技者は第三回目には最後に飛ぶという風に逐次飛込順序を變えることが望ましい」

◇同第一章 4 の全文を削除し次を入れる

「一飛込競技に於て競技者の行う飛込總数が過多となつた場合飛込數を數群に分けて競技を行うものとする、この場合一群の飛込數は百五十を越えてはならぬ、各群の飛込は全競技者が連続して行い夫々の群は別個に實施する、順位は全飛込の結果を總計して決定する」

◇同第一章 6 の第二行「競技者は最も速かに……」以下を削除し第二節として次を加う

「飛込は審判長の合圖のありたるのち行う、もし競技者が合圖以前に飛込を行いたる場合その飛込を再行せしめるか否かは審判長これを決定す」

◇飛込規則第一章通則 8 を次の如く改む

「各飛込競技は次の二種の飛込よりなる。

(a) 難易率の合計が制限せられたる異つた群からの選擇飛込數種

(b) 難易率の合計に制限なき異つた群からの選擇飛込數種

このため規則文中規定飛とあるは (a) 制限選擇飛、選擇飛とあるは (b) 無制限選擇飛と改む

◇同第 10 章を次の如く改む。

規則 8 の (a) に於て選んだ飛込は (b) に於て行つてはならない、同番號の飛込は同一のものと見做す

◇同第一章 29 の第一節中「但し 6・5 點云々」とあるを「5・5 點 6・5 點云々……」と改む

◇同第一章 31 の第一節を次の如く改む

「競技者が通告されたる以外の飛込をなしたるものと審判長が認めたるときは審判長はその飛込を失敗と宣告する」

また最後の節として次を加う

「競技者が事故の場合以外に飛込の實施を拒みたるときは競技を放棄したるものと認む

◇第三章飛込の方法 33 のハの第一節の「而して」以下を次の如く改む

「板の先端に向いて飛上る前飛板においては少くとも 3 歩高飛込においては少くとも 4 歩走るを要す」また第三節を削除し第二節を二の第一節のあとに挿入しそのあとは次の二節を加う。

「競技者が後飛の踏切を行う前にわずかに足を板より離したる場合は飛上りとみなさず不慮の動作とみなし審判員個々の意見によつて減點すべきものとす」

「前逆飛において競技者の指が板の先端に觸れたるときはその飛込が如何に立派に行われたるものにせよ完全な飛込としては板に餘りにも近すぎたことを示すものであり各審判員は減點に關し各々の意見に従つて考慮しなければならぬ」

二の最後の節の最初の二行を次の如く改む

「逆立飛に於て體を完全に伸し平衡を保つ姿勢を示さざる場合は審判員は 1 點乃至 3 點を減點すべきものとす」

同じく最後の節の「立直し 2 回に及ぶときは」の次を「審判長はこれを失敗と宣告す」に改む

◇同飛込の方法 33 のホの最後に次を加う

「(これは前飛伸形の場合のみをいう、前飛蝦形及び抱形の場合腕の位置は競技者の隨意とす)

前飛込に於て伸ばしたる腕を直接頭上にまつすぐ揃えず腕を内側に曲げてのちのばしたる場合は各審判員は狀況に應じ 2 點乃至 3 點を減點すべきものとす

◇同 33 へをト、トをチ、チをリとしへとして次の節を加う

「前途中宙返り一回または一回半に於ては體を伸ばしたる姿勢は空中の飛上りの最高位置まで保ち回轉は體が下降する迄にはじめてはならぬ」

またトの最後に次の二節を加う

「飛込の名稱で「捻りながら」とあるは回轉中に捻りかけるべきことを示す」

「前宙返り一回して半回捻り(飛板 43 號)の如き飛込は捻りは回轉が完全に完了するまで開始してはならぬ

◇同二の最後の節として次を加う

もし両腕が入水時所定の正しい位置に非ざるときは審判員は状況により 1 点乃至 3 点を減点すべきものとす。

◇第五章 42 を次の如く改め 43 を削除す

男子飛板飛込は難易率合計が一・〇を越えざる選擇飛六種と難易率に制限なき選擇飛六種とす
 女子飛板飛込は難易率の合計が九・〇を越えざる選擇飛五種と難易率に制限なき選擇飛五種とす
 男子高飛込は難易率の合計が一・〇を越えざる選擇飛六種と難易率に制限なき選擇飛四種とす
 女子高飛込は難易率の合計が七・〇を越えざる選擇飛四種と難易率に制限なき選擇飛二種とす
 中等初等飛込につきては別に定む

(A) 難易率改正種目(1)

飛板飛込

* 女子に禁ず + 女子は五米より出来る

新番 規 約號	舊番 規 約號	型	改正セラレタル難易率			
			立飛込		走飛込	
			1 米	3 米	1 米	3 米
第一群 前飛込 (前踏切)						
1	1	蝦抱	1.1	1.2		
					1.1	
2	2	伸抱	1.8	1.6		1.6
3	3	蝦抱	—	1.7	7.7	1.7
						1.7
4	4	伸抱	—	2.2	—	2.1
					1.5	1.5
5	5	抱抱	—	1.8		1.7
6	6	蝦抱	* —	2.2		—
						2.1
7	7	抱抱	—		2.2	—
						2.1
8	8	蝦抱	* —	—	—	2.6
第二群 後飛込 (後踏切)						
9	9	蝦抱	1.6			
				1.6		
10	10	蝦抱	1.6			
				1.4		
11	11	抱抱	1.6			
					2.1	
12	12	蝦抱			2.0	
13	13	抱抱	* 2.2			

新番 規 約號	舊番 規 約號	型	改正セラレタル難易率			
			立飛込		走飛込	
			1 米	3 米	1 米	3 米
第三群 前逆飛						
15	15	伸蝦抱			1.6	1.6
					1.6	1.6
		伸蝦抱	1.7		1.7	1.6
				2.2		
16	16	抱抱				1.7
				1.6		
17	17	抱抱			1.8	
18	18			女子にも可		
		蝦抱	* —		2.3	
20	20			* —	2.1	
						2.2
第四群 前飛込 (後踏切)						
22	22	伸蝦抱	1.6		1.5	
				1.2		
		抱抱	1.1		1.2	
23	23					1.7
25	25	蝦抱	2.4			
27	27	抱抱	* —		2.6	
第五群 捻り飛込						
28	28	蝦抱			1.7	
29	29	蝦抱	2.0		1.9	
30	30	抱抱	* 2.5			
31	31	伸蝦抱	1.9		1.8	
32	32	抱抱	2.1			2.1
				2.2		2.1
33	33	蝦抱	1.8		1.8	

新番 規 約號	舊番 規 約號	型	改正セラレタル難易率			
			立 飛 込		走 飛 込	
			1 米	3 米	1 米	3 米
34	34	蝦		2.2		
35	34	伸		2.0		
37	35	伸 蝦	* 2.0		2.2	
38	36			女子にも可		
40	37	伸				2.2
42	38	伸 蝦	1.7	1.9	1.8	1.9
43	39			1.9	1.6	1.8
44	40					
45	41					
47	42	伸	*		2.1	
48	43	伸 抱	*		2.3	2.2
50	45			抱	*	1.9
53	46	抱	*	1.8	2.0	1.9
			女子にも可	—	2.4	2.3

難易率改正種目(2)

高 飛 込

新番 規 約號	舊番 規 約號	型	難 易 率			
			立 飛 込		走 飛 込	
			5 米	10 米	5 米	10 米
第一群 前 飛 込 (前踏切)						
1	1	伸		1.2		1.3
* 2	2	伸 蝦	1.6	1.8		1.7
			抱	1.4	1.6	1.4
3	3	伸 抱	1.6			
			抱	1.4	1.6	1.4
4	4	伸 抱	—	2.0	—	1.9
			抱	1.4	1.6	
5	5	伸 抱	1.6	1.7	1.7	
			抱	1.4		1.5
6	6	伸 抱	—	—		2.6
			抱	2.0	2.1	1.9
			1.9	2.0	1.8	2.1

新番 規 約號	舊番 規 約號	型	難 易 率			
			立 飛 込		走 飛 込	
			5 米	10 米	5 米	10 米
7	7		—	3.2		
8	8	伸 抱		2.2		2.1
10	9		抱	2.0		2.5
第二群 後 飛 込 (後踏切)						
11	10	伸 抱	1.4	1.8		
			抱	1.5	1.9	
12	11	伸 蝦		1.7		
			抱	1.4		
13	12	伸 抱	1.3			
			抱	1.4	1.8	
14	13	伸 抱	2.3			2.2
			抱			2.1
15	14	伸 抱	2.3	2.2		
			抱	2.0		
16	15	伸	—	2.7		
第三群 後 飛 込 (前踏切)						
17	16	伸 抱		1.8		2.0
			抱	1.6	1.8	1.7
18	17	伸 蝦	1.6		1.7	
			抱	1.5	1.6	1.6
19	18	伸 抱	1.4		1.4	
			抱	1.7		1.6
20	19	伸 蝦	—	2.5		
			抱	—	2.2	2.2
21	20	伸 抱	1.9	2.0	1.9	2.1
			抱			
22	21	伸 抱				2.2
			抱	2.0		1.9
23	22	伸				2.7
第四群 前 飛 込 (後踏切)						
24	23	伸 抱	1.4			
			抱	1.3	1.4	
			1.2	1.3		

新番 規 約號	舊番 規 約號	型	難 易 率			
			立 飛 込		走 飛 込	
			5 米	10 米	5 米	10 米
25	24	蝦抱	1.5			
			1.4	1.7		
26	25	抱		1.8		
27	26	蝦抱	1.8			
			1.6	1.6		
29	28	蝦抱		2.3		
					2.1	
第五群 逆立ち飛込						
31	30	伸	1.3	1.4		
32	31	伸	1.4	1.7		
33	32	伸	1.6	1.6		
		蝦	1.4	1.6		
31	33	伸		1.8		
		蝦	1.5	1.5		
		抱	1.4			
35	34	抱	2.0			

(B) 新 種 目

飛 板 飛 込

番 號	名 稱	型	難 易 率			
			立飛込		走飛込	
			1米	3米	1米	3米
36	一回半捻り乍ら後宙返り一回半	*		2.5		
39	前逆飛半回捻つて宙返り一回半	*				2.4
41	前飛半回捻つて(伸形)宙返り一回	*			1.8	2.0
42	半回捻り乍ら前宙返り一回	{ 伸* 蝦*	1.7	1.9	1.8	1.9
				1.8	1.6	1.8
46	前飛一回捻つて宙返り一回	*				2.2

番 號	名 稱	型	難 易 率			
			立飛込		走飛込	
			1米	3米	1米	3米
49	前逆宙返り一回半して半回捻り	{ 蝦* 抱*		2.3	2.4	2.4
51	前飛半回捻つて宙返り一回半	*				2.3
52	半回捻り乍ら前宙返り一回半	*				2.1
54	二回捻り乍ら前宙返り一回半	*				2.7
55	半回捻り乍ら後宙返り一回	*	1.8	1.9		
56	後宙返り一回して半回捻り	*	1.9	2.0		
57	一回捻り乍ら後宙返り一回	*	2.0	2.1		
58	後宙返り一回して一回捻り	*			2.3	
59	半回捻り乍ら後踏切前宙返り一回	{ 蝦抱	1.9	2.0		
			1.8	1.9		
60	後踏切前宙返り一回して半回捻り	{ 蝦抱	2.1	2.2		
			2.0	2.1		

高 飛 込

番 號	名 稱	型	難 易 率			
			立飛込		走飛込	
			5米	10米	5米	10米
第一群 前飛込 (前踏切)						
9	前宙返り一回して前途中宙返り一回半	*				2.2
第五群 逆立ち飛込						
36	逆立ち中抜逆宙返り一回	*	-	2.0	-	-
第六群 捻り飛込						
37	前飛一回捻	*	-	-	-	1.9
38	一回捻り乍ら前宙返り一回半	*	-	-	-	2.8
39	半回捻りながら後宙返り一回半	*	-	2.0	-	-
40	前逆飛半回捻り	伸 +	1.6	1.8	1.7	1.9
41	前逆飛伸形半回捻つて(伸形)宙返り一回	*				2.2
42	前逆飛(伸形)半回捻つて(伸形)宙返り一回半	*				2.4

海 外 ニ ュ ー ス

アメリカ選手フランスその他に遠征

一九四九年のシーズンにアメリカの六選手が歐洲に遠征した。アレン、スタック(背泳)ブルース・ハ

ーラン(飛込)ボツブ・ジャイブ(自由形)バーバラ・ゼンセン(女子背泳)の四選手がレオナード監督とシヤプロンのコデイ夫人に伴われて六月十八日パリに到着、各地をまわり途中それとは別に遠征してきたゾー・アン・オルセン(女子飛込)さらにあとでヴァーデユアー(平泳)と一緒にあつた。

スタックらの一行はフランスの青年實業家でリール・アダム海邊クラブの會長 アンリ・ミュレ氏の招待によるものであつた、遠征中かなりよい記録を出しているの概況をお知らせしよう。

飛行機で十八日にパリに着いた途端 その夜歓迎水泳大會が準備されていたことを知り選手たちは驚いたらしいがともかくエキビションとして泳ぎパリから二十二マイルのリールアダム海邊で休んだのちパリにもどり二十六日ツレルプール(五十米)での競技會に出た。觀衆四千五百名

◇パリ大會

△100 米背泳 ①スタック 1 分 7 秒 3 ③G. ヴアレリー (フランス)

△200 米平泳 ①ヴァーデュアー 2 分 41 秒 6 ③アレックスセゲデイ (もとハンガリー選手パリ住民)

△100 米自由形 ①ジャニー (フランス) 58 秒 1 ②ガイブ

△女子 100 米背泳 ①ゼンセン 1 分 19 秒 4 ②ベルリウ (フランス)

◇26 日夕方 リールアダムの 25 米プールエキビション

△150 米個人メドレー 1 分 43 秒 5 (アメリカ新)

このあと一行はバスを利用し千八百マイルに及ぶ旅行をした。これにはミュレ氏のほかフランスの八選手(モロー、エルナンデス=飛込ヴァレリ、ピロリ、ベルリウ=背泳、ルジアン、セゲデイ=平泳ジャニー=自由形 スカンデナビアの女子選手クリストファーセン、さらにジャニーのコーチマンヴィルも加つた。

◇28 日 マルセイユ 25 米プール

△150 米メドレースタック、ヴァーデュアー、ガイブ 1 分 26 秒 2 (アメリカ新)

△200 米平泳、ヴァーデュアー 2 分 33 秒 4

◇29 日 モナコ 25 米プール (海水プールが海に開放されていた)

△100 米平泳、ヴァーデュアー 1 分 7 秒 (非公認だが世界最高)

△100 米自由形、ジャニー 57 秒 2

△100 米背泳、ゼンセン 1 分 16 秒 8

◇7 月 1 日 2 日 マルセイユ 25 米プール

△200 米自由形、ジャニー 2 分 7 秒 4 △200 米背泳、ピロリー (17 歳) 2 分 24 秒 2 ②スタック

一行はその後リール・アダムで休養しヴァーデュアーは別れてアメリカに歸つた。これから三週間ス

ウェーデンに行く豫定であつたが、手違いからスウェーデンは選手は三名だけしか招待しないというので、結局ミュレ氏の好意で一週間北アフリカのカサブランカに出かけた。

◇7 月 24, 26, 28 日 50 米鹽水プール

△100 米自由形、ガイブ 57 秒 1 △ゼンセン 100 米自由形、1 分 10 秒、100 米背泳、1 分 16 秒 2

△150 米個人メドレー 2 分 2 秒 3

△100 米背泳 ①G. ヴアレリー 1 分 4 秒 9 (歐州新記録) ②スタック 1 分 5 秒 0

△200 米背泳 (25 米プール) 2 分 22 秒 7 (歐州新)

短 信

× × ×

ロンドンオリンピックの四百米に優勝しその後プロに轉向したアメリカのアン・カーチス嬢は五月末加州大のバスケットの元花形選手 ゴルドン・キユネオ君と結婚した。

× × ×

同じく百米優勝者 ウォリー・リス君は同君と同じ大學の女子學生ヴァージニア・ヘイゼン嬢と婚約した(もう結婚したかも知れぬ)

全米女子競泳飛込戶外選手權大會

全米女子競泳飛込戶外選手權大會は男子の大會についで八月二十日から三日間テキサス州サン・アントニオで行われハワイチームが 48 點をあげて優勝した。

四百のオリンピックチャンピオンカーチスがプロに轉向しまた背泳のオリンピック二着のジンマーマンが大會前米體協に無断でフィリッピンに遠征した水泳團に加わつてアマチュア資格の停止をくつたりしてそのため出られなかつたものか一面の淋しさはあつたが、サンフランシスコのバーバラ・ゼンセンが背泳で活躍、またハワイのテルマ・カラマ(オリンピック選手)やカワモト嬢らも力泳した、八百八十ヤードに優勝したハワイのクラインシュミット嬢は十三歳の少女である。

△110 ヤード自由形 ①テルマ・カラマ(ハワイ) 1 分 10 秒 9 ②レヴィン(タウン倶シカゴ) 1 分 10 秒 6 ③シュワルツ(ケノシヤ・ウイスコンシン) 1 分 11 秒 6 ④ベル(ロサンゼルス AC) 1 分 12 秒 7 ⑤ステパン(レイクショア・シカゴ) 1 分 13 秒 6

⑥ウォルシュ (スクラントン・パサデナ) 1 分 13 秒 3

△440 ヤード自由形 ①テルマ・カラマ (ハワイ) 5 分 41 秒 2 ②クラインシュミット (ハワイ) 5 分 43 秒 4 ③ウォルシュ (スクラントン俱) 5 分 50 秒 8 ④ヌマズ (ハワイ) 5 分 51 秒 3 ⑤ブルツゲマン (メキシコ市) 5 分 56 秒 6 ⑥リンデツカー (クリスタル・ブランデ) 5 分 59 秒 7

△880 ヤード自由形 ①キヤザリン・クラインシュミット (ハワイ) 11 分 48 秒 1 ②ルチアンス (インディアナ・ボリス) 11 分 48 秒 1 ③ウォルシュ (スクラントン水俱) 12 分 18 秒 8 ④テルマ・カラマ (ハワイ) 12 分 30 秒 2 ⑤ヘイ (ハワイ) 12 分 32 秒 4 ⑥シヤフナー (リヴィエラ) 12 分 35 秒

△1 マイル ①ジャン・ルチアンス (インディアナボリス) 24 分 34 秒 5 ②クラインシュミット (ハワイ) 24 分 57 秒 2 ③ヌマズ (ハワイ) 25 分 27 秒 5 ④シヤフナー (インディアナボリス) 25 分 44 秒 6 ⑤テルマ・カラマ (ハワイ) ⑥ヘイ (ハワイ)

△110 ヤード平泳 ①キヤロル・ペンス (ラフアイエツト) 1 分 25 秒 8 ②ハルトン (ブライトン水俱) 1 分 26 秒 6 ③コーネル (マルトナ AC) 1 分 28 秒 2 ④カワモト (ハワイ) 1 分 30 秒 4 ⑤ピータース (ブライトン水俱) 1 分 31 秒 7 ⑥ローランド (タコマ水俱)

△220 ヤード平泳 ①イヴリン・カワモト (ハワイ) 3 分 14 秒 5 ②ニューレンキャンプ (クリスタルブランデ) 3 分 18 秒 ③フェザース (ロサンゼルス AC) 3 分 18 秒 5 ④ペンス (ラフアイエツト) 3 分 18 秒 7 ⑤キノシタ (ハワイ) 3 分 24 秒 9 ⑥パウワー (リヴィエラ) 3 分 28 秒

△110 ヤード背泳 ①バーバラ・ゼンセン (クリスタルブランデ) 1 分 20 秒 3 ②メロン (ロサンゼルス AC) 1 分 21 秒 ③ゲアリー (ロサンゼルス AC) 1 分 22 秒 ④ドナヒュー (ラフアイエツト) 1 分 23 秒 5 ⑤オブライエン (ニューワーク) 1 分 24 秒 3 ⑥ドータース (シヤトル) 1 分 24 秒 0

△220 ヤード背泳 ①バーバラ・ゼンセン (クリスタルブランデ) 2 分 54 秒 9 ②メロン (ロサンゼルス)

ス) 2 分 57 秒 ③オブライエン (ニューワーク) ④ドナヒュー (ラフアイエツト) ⑤ムラカミ (ハワイ) ⑥ブレア (サンフランシスコ)

△330 ヤード個人メドレー ①イヴリン・カワモト (ハワイ) 4 分 27 秒 5 (アメリカ新) ②ゼンセン (サンフランシスコ) 4 分 36 秒 ③オルセン (サンフランシスコ) 4 分 43 秒 7 ④ブルツゲマン (メキシコ市) 4 分 48 秒 9 ⑤モス (ホイーリング西ヴァージニア) 4 分 55 秒 6 ⑥ローラント (タコマ水俱) 4 分 59 秒 6

△330 ヤードメドレーリレー ①ロサンゼルス AC (ゲアリー、フェザース、メロン) 4 分 2 秒 6 ②ラフアイエツト C.C. 4 分 3 秒 8 ③クリスタル・ブランデ 4 分 6 秒 9 ④ハワイ 4 分 10 秒 5 ⑤ケノシヤ青年 4 分 11 秒 7 ⑥クリスタルブランデ B 4 分 13 秒

△880 ヤードリレー ①ハワイ A (ムラカ、シクラインシュミット、カワモト、カラマ) 10 分 42 秒 9 ②クリスタルブランデ俱 10 分 4 秒 2 ③ロサンゼルス AC 11 分 4 秒 6 ④シカゴタウン俱 11 分 10 秒 5 ⑤リヴィエラ俱 11 分 26 秒 2 ⑥ケノシヤ青年 11 分 34 秒 3

△1 米飛板 ①ゾーアンオルセン (エイゼンス AC) 132.70 ②ストーヴァー (無所屬カリフォルニア) 109.56 ③カニンガム (ニューワーク AC) 108.5⁶ ④マコーミツク (ロサンゼルス AC) 107.41 ⑤マロン (オマハ AC) 90.50 ⑥ヘーデン (シヤムロツクコルク俱・テキサス) 87.6

△3 米飛板 ①ゾー・アン・オルセン (エイゼンス AC) 155.76 ②ストーヴァー (カリフォルニア) 138.23 ③カニンガム (ニューワーク AC) 137.31 ④マコーミツク (ロサンゼルス AC) ⑤マロン (オマハ AC) ⑥ビツグス (フォースワース)

△10 米高飛込 ①パット・ケラー・マコーミツク (ロサンゼルス) 70.38 ②ストーヴァー (カリフォルニア) 67.90 ③エリオツト (ロサンゼルス) 51.98 ④ベラウステレビゴイタ (メキシコ市) 39.35 ⑤ハート (ハウストン) 38 ⑥リオス (メキシコ市) 36.50

第1回三重縣民體育大會

夏期水上競技大會

6月26日 三重農專プール(25米) 未公認 (氣温 25°) (水温 22°)

高校之部

50米自由形				
1	岩間冬青	(尾高)	30.0	
2	奥代直己	(農專)	30.8	
3	濱田俊作	(引本)	30.8	
100米自由形				
1	前田滿津男	(水專)	1:11.6	
2	濱田愼三	(引本)	1:11.7	
3	尾上純之	(尾高)	1:12.5	
200米自由形				
1	野垣内忠雄	(松高)	2:41.2	
2	奥村東吾	(尾高)	2:43.3	
3	渡邊隆	(四高)	2:45.8	
400米自由形				
1	野垣内忠雄	(根高)	5:49.1	
2	鈴村順且	(津高)	6:00.8	
3	濱田暹	(引本)	6:05.5	
100米背泳				
1	森田敬三	(山高)	1:24.3	
2	濱田史郎	(引本)	1:24.3	
3	中村武司	(尾高)	1:31.0	
200米平泳				
1	水越明	(四高)	3:07.0	
2	山口清一	(尾高)	3:16.7	
3	山中定雄	(近鐵)	3:17.9	
200米リレー				
1	奥村、奥村(東) 小島、尾上	(尾高)	2:04.3	
2		(引本)	2:04.3	
3		(四高)	2:08.9	

300米メドレーリレー

1	濱田、伊藤 濱田(俊)	(引本)	4:08.2
2		(四高)	4:12.6
3	森田、廣 森本	(山高)	4:13.8

新中之部

50米自由形				
1	杉本篤男	(潮南)	33.6	
2	栗田温	(尾南)	34.4	
3	伊藤四郎	(橋南)	35.8	
100米自由形				
1	杉本篤男	(潮南)	1:16.7	
2	森正進	(橋北)	1:17.6	
3	伊藤司郎	(潮南)	1:17.6	
100米背泳				
1	直江義也	(潮南)	1:37.4	
2	村田守	(橋北)	1:40.2	
3	奥村雄二郎	(潮南)	1:43.0	
100米平泳				
1	井田俊平	(潮南)	1:30.4	
2	奥村英雄	(潮南)	1:37.2	
3	鹽崎信行	(尾南)	1:38.6	
200米リレー				
1	奥村、伊藤、藤 鹽崎、村本	(潮南中)	2:19.8	
2	栗田、若林 野田、楠	(尾南中)	2:31.4	
2	森、小林、 村田(又)、村田(宗)	(橋北中)	2:41.6	
300米メドレーリレー				
1	直井、井田 杉本	(潮南中)	4:23.6	
2	長谷川、村田 森	(橋北中)	4:51.4	
3	仲本、鹽崎 橋本	(尾南中)	5:10.1	

第1回中法専三大學對抗水上競技會

7月25日 中大プール(50米) 未公認 (氣温 21°) (水温 20°)

100米 自由形				2	渡邊 眞	(法 大)	1:26.4
1	石井 明	(中 大)	1:05.6	3	山本 弘次	(法 大)	1:30.4
2	小出 和夫	(法 大)	1:08.8	200米 平 泳			
3	山田 正人	(中 大)	1:12.2	1	萩原 義春	(中 大)	3:09.6
200米 自由形				2	久保 道幸	(中 大)	3:16.0
1	石井 明	(中 大)	2:29.0	3	吉村 元	(法 大)	3:19.4
2	鈴木 朝治	(法 大)	2:30.6	800米 リレー			
3	向川 勇	(中 大)	2:31.0	1	石井、向川、大古、柴崎	(中 大)	10:27.6
400米 自由形				2	福田、小出、長澤、鈴木(朝)	(法 大)	11:07.8
1	鈴木 朝治	(法 大)	5:30.2	3	古澤、鈴木、山口、皆川	(専 大)	12:58.4
2	向川 勇	(中 大)	5:31.6	300米 メドレーリレー			
3	佐藤 幸男	(中 大)	5:54.2	1	大古、久保、石井	(中 大)	3:50.8
800米 自由形				2	渡邊、吉村、鈴木	(法 大)	4:01.0
1	佐藤 幸男	(中 大)	12:28.2	3	門田、大森、皆川	(専 大)	4:32.2
2	柴崎 寅男	(中 大)	12:33.2	100米 背 泳			
3	長澤 宏男	(法 大)	12:51.0	1	大古 敬宜	(中 大)	1:17.4

(29頁より續く)

解答 水連コーチ 小池 禮三

此の問題は一律にこうだと決める譯けには出来ない問題でそれというのは泳ぎというのは各人各様に違うもので各個人の特長を生かして延ばすことも必要であるし又泳ぎには各人の特長が加味されてるとは云え大體の標準というものもあるからその泳者が此の標準から突飛もなく外れている様な時はその缺點を指摘して矯正する必要があると思う、故にコ

ーチは自個の判断に依り少し位の缺點はそのまゝにして長所を延させるか或いは缺點を指摘してこれを矯正させるかを決定する必要があるし又缺點を直すつゝ長所を延すことも考えられる、又缺點を直す場合でも直接その缺點を攻めないで他から攻めるといふ方法等を考えられる、例えば平泳ぎで足が弱い者に対して唯足を強く蹴る様に云つてもなかなか實現出来ないがこういう泳者は例外なく腕が伸びていないから必ず腕を良く伸す様に注意するとよい、すると腕を伸す爲めには足を強く蹴る様になる。

明治生命

愛するものの

ために!

この

保険



月掛
特種養老



ニッサギン 石鹼 マーガリン

硬化油・脂肪酸・グリセリン
塗料・火薬・電氣熔接棒

日本油脂

東京・日本橋

大阪・堂ビル

すべてGによる

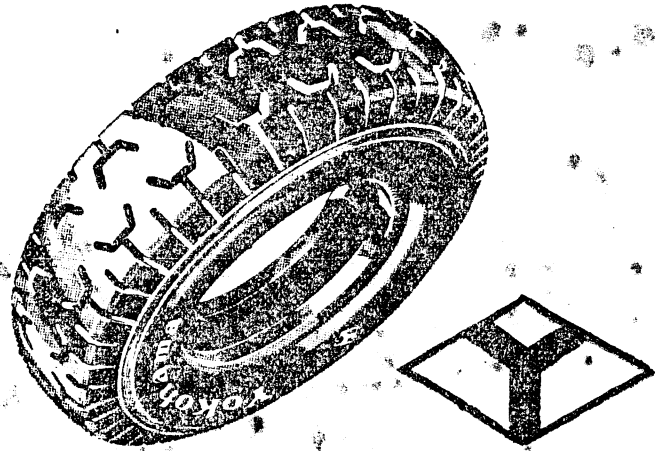
ペニシリン-明治



油性は一日一度の注射ですみ
その効能は従来のものより
永持ちがしますし使い
方は簡単で、ありあわせ
の注射筒で間に合います

- ☆ 結晶 G 100,000 及 200,000 國際單位
夏期常溫保存 冷蔵不要
- ☆ 油性結晶プロカインペニシリンG
1cc 注射筒入 5cc 壺入 (1cc30萬單位含有)
常溫流動性、使用時加熱不要、注射量隨意、冷蔵不可
- ☆ 結晶ペニシリン軟膏
やけど、きりきず、できもの、ものもらい、はれもの
その他のぬり薬 5瓦チューブ入

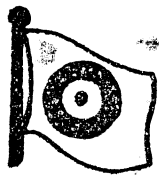
明治製菓株式会社



横濱護謨製造株式會社

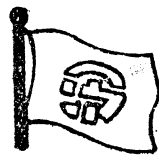
本社 東京都港区芝田村町五ノ七ノ二

電話 芝 (43) 1 1 9 1-5



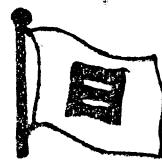
日本水産株式會社

本社 東京都台東區南稻荷町二四番地
電話 下谷 (83) 二二一〇一四
一〇六一七



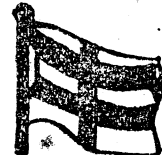
日本冷蔵株式會社

本社 東京都中央区湊町三丁目八番地
電話 築地 (55) 三三三〇六九
一一四三七九



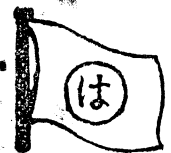
日魯漁業株式會社

本社 東京都千代田區丸ノ内三ノ三九ビル階
電話 丸ノ内 (23) 代表 四三一



極洋捕鯨株式會社

本社 東京都千代田區丸ノ内三ノ三九ビル階
電話 丸ノ内 (23) 〇二七二四
一三六三十四
四〇六三五



大洋漁業株式會社

本社 下關市竹崎町六一番地
電話 下關 (代表) 一五〇〇